

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
<b>大問 1</b>					
2013	東方植民	中世・近世	欧州	社会・経済	400
2012	ユグノー戦争	近世	欧州	政治・社会	400
2011	フス戦争の背景と意義	中世	欧州	政治・文化	400
2010	ヴォルムス協約の意義	中世	欧州	政治・文化	400
2009	西欧世界の成立	中世	欧州	政治	400
2008	ハンザ同盟の盛衰	中世・近世	欧州	経済	400
2007	フランク王国の分裂と東フランクの発展	中世	欧州	政治	400
2006	オットーの皇帝戴冠の歴史的意義	中世	欧州	政治	400
2005	身分制議会	中世・近世	欧州	政治・社会	400
2004	ドイツとイギリスの宗教改革	近世	欧州	政治・社会	400
2003	15世紀のイタリア	近世	欧州	政治・社会・文化	400
2002	教会改革運動	中世	欧州	政治・社会・文化	400
2001	ヨーロッパ世界の形成	中世	欧州	政治・社会・文化	400
2000	ドナウ帝国の発展	近世・近代	欧州	政治	400
1999	ノルマン人とイングランド王朝	中世	欧州	政治	400
1998	イギリス・ドイツの人口変動と社会	近世	欧州	政治・社会・経済	400
1997	キリスト教と4-5世紀のローマ帝国	古代	欧州	政治・文化	400
1996	中世と近世の農業革命	中世・近世	欧州	社会・経済	400
1995	三十年戦争の影響	近世	欧州	政治・社会	400
1994	ヨーロッパ中世都市の自由	中世	欧州	社会	400
1993	教皇権の絶頂	中世	欧州	政治・文化	400
1992	古代地中海世界の解体	古代・中世	欧州	政治・社会・経済・文化	400
1991	中世キリスト教世界とマジャール人の侵入	中世	欧州	政治・社会	400
1990	キリスト教と技術・科学	中世・近世・近代・現代	欧州	社会・文化	400
1989	神聖ローマ帝国	中世	欧州	政治・文化	400
<b>大問 2</b>					
2013	フランス革命の性格	近世・近代	欧州	政治・社会	400
2012	国際安全保障の歴史	現代	全地域	政治	400

# 一橋大学

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
2011	1 パリ=コミュニケーション	近代	欧州	政治	50
2011	2 19世紀後半ヨーロッパの国際関係	近代	欧州	政治	350
2010	1 1869年の交通史上の変化	近代	北米・西アジア	政治・社会・経済	50
2010	2 女性参政権の実現の背景	近代	欧州・北米	政治・社会	350
2009	七年戦争	近世	欧州・北米・南アジア	政治	400
2008	1 米西戦争の原因	近代	欧州・北米・中南米	政治	100
2008	2 米西戦争とフィリピンの独立運動	近代・現代	欧州・北米・中南米・南アジア	政治	150
2008	3 米西戦争後の合衆国のアジア政策	近代・現代	北米・東アジア	政治	150
2007	フランス革命の背景	近世・近代	欧州	政治・社会・経済	400
2006	1 中世の市民	中世	欧州	社会・経済	250
2006	2 ナショナリズムとロマン主義	近代	欧州	政治・社会・文化	150
2005	核兵器の歴史的役割	現代	全地域	政治	400
2004	1 近世国家の政治・経済的特徴	近世	欧州	政治・社会・経済	100
2004	2 ピョートル1世の西欧化政策	近世	欧州	政治・社会・経済	300
2003	1 共和党の主張	近代	北米・中南米	政治・社会・経済	100
2003	2 アメリカ大陸の奴隷制	近代	北米・中南米	政治・社会・経済	300
2002	フランス二月革命	近代	欧州	政治・社会・経済	400
2001	絶対主義	近世	欧州	政治・社会	400
2000	1 合衆国のヴェトナム戦争介入の歴史	現代	北米・南アジア	政治・社会・経済	200
2000	2 ヴェトナム戦争の合衆国への影響	現代	北米・南アジア	政治・社会・経済	200
1999	ビスマルク時代のドイツ	近代	欧州	政治・社会・経済	400
1998	フランス第三共和政	近代	欧州	政治・社会	400
1997	1 ヴァイマル憲法	現代	欧州	政治・経済	100
1997	2 ヴァイマル共和国	現代	欧州	政治・経済	300
1996	冷戦期の世界	現代	北米	政治	400
1995	第二次産業革命	近代・現代	欧州	社会・経済	400
1994	ネーデルラントの歴史的経過	中世・近世・近代	欧州	政治・文化	400
1993	アメリカ合衆国の黒人問題	近代・現代	北米	社会・経済	400
1992	東欧諸国の独立	現代	欧州	政治	400

# 一橋大学

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
1991	独仏関係の変遷	近代・現代	欧州	政治・社会・経済	400
1990	砂糖・茶と世界の一体化	近世	欧州・東アジア・中 南米・アフリカ	政治・経済	400
1989	第一次世界大戦前後の日本の国際状況	近代・現代	東アジア	政治	400
<b>大問 3</b>					
2013	A 革命派と立憲派の論争	近代	東アジア	政治	200
2013	B 開化派	近代	東アジア	政治	200
2012	1 イギリスの東南アジア経営	近代	欧州・南アジア・東 アジア	政治・経済	200
2012	2 清朝の交易体制の変化	近代	欧州・南アジア・東 アジア	政治・経済	200
2011	1 17世紀オランダのアジア貿易	近世	欧州・南アジア・東 アジア	政治・経済	200
2011	2 三藩の乱	近世	東アジア	政治	200
2010	1 平和十原則	現代	東アジア・西アジ ア・南アジア・アフ	政治	100
2010	2 西安事件	現代	東アジア	政治	150
2010	3 国民会議派	近代	南アジア	政治	150
2009	A 世界恐慌後のインドの民族運動	現代	南アジア	政治・経済	200
2009	B 日本の朝鮮支配	現代	東アジア	政治・社会	200
2008	1 日本の朝鮮支配	近代	東アジア	政治	200
2008	2 日露戦争後の朝鮮と中国	近代	東アジア	政治	200
2007	1 太平天国の乱	近代	東アジア	政治・社会・経済・ 文化	100
2007	2 洋務運動	近代	東アジア	政治・社会・経済・ 文化	100
2007	3 1870～80年代の清朝の対外関係	近代	東アジア	政治・社会・経済・ 文化	200
2006	A ムガル帝国の社会・制度	近世	南アジア	政治・社会・文化	200
2006	B 典札問題, 八旗	近世	東アジア	政治・社会・文化	200
2005	華僑と印僑	近代・現代	東アジア・南アジア	政治・社会	400
2004	A イスラーム帝国	近世	西アジア・南アジア	政治	200
2004	B b文学革命	現代	東アジア	政治	200
2003	A 洋務運動と変法運動	近代	東アジア	政治・社会	200
2003	B 近代の中東	近代	西アジア	政治	200
2002	A 日中戦争と東アジア	近代・現代	東アジア	政治・社会・経済	200
2002	B 戦時期の日本の朝鮮支配政策	近代・現代	東アジア	政治・社会・文化	200

# 一橋大学

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
2001	A 古代インド世界の成立	古代	南アジア	社会・文化	200
2001	B 古代朝鮮	古代	東アジア	政治	200
2000	1 近世のヨーロッパ諸国の銀の獲得	近世・近代	欧州・東アジア・南アジア	経済	65
2000	2 18世紀のイギリス三角貿易	近世・近代	欧州・東アジア・南アジア	経済	135
2000	3 香港植民地の歴史	近世・近代	欧州・東アジア・南アジア	経済	200
1999	1 国民革命の収束	現代	東アジア	政治	300
1999	2 1920年代のヴェトナム民族運動	現代	東アジア・南アジア	政治	100
1998	ア 清朝の中国支配の過程	近世	東アジア	政治	200
1998	イ 朝鮮と日本・清との外交関係	近代	東アジア	政治	200
1997	1 孫文と中国革命同盟会	近代・現代	東アジア	政治	200
1997	2 袁世凱政権	近代・現代	東アジア	政治	200
1996	ア 清露関係	近世・近代	東アジア	政治	280
1996	イ 東清鉄道をめぐる日露関係	近世・近代	東アジア	政治	120
1995	1 ヨーロッパの進出と東南アジアの変化	古代・中世・近世・近代	欧州・南アジア	政治・社会・経済・文化	240
1995	2 西欧進出以前の東南アジアの人の移動	古代・中世	南アジア	政治・社会・経済・文化	100
1995	3 東南アジアへの人々の移動と影響	中世・近世	南アジア	政治・社会・経済・文化	60
1994	ア 上海の歴史	近代・現代	東アジア	政治・経済	200
1994	イ カルカッタの歴史	近代・現代	南アジア	政治・経済	200
1993	ア 9-12世紀のトルコ系民族の移動	中世	西アジア・南アジア・中央アジア	政治・社会	200
1993	イ 19世紀後半の清朝藩属国の離脱	近代	東アジア・南アジア	政治	200
1992	ア イスラームの中世	中世	西アジア	政治・社会・文化	200
1992	イ 日本の朝鮮半島支配	近代	東アジア	政治	200
1991	ア 甲午農民戦争	近代	東アジア	政治・社会	200
1991	イ 皇民化政策	近代・現代	東アジア	政治・社会	200
1990	ア 清の藩部支配の経緯	近世・近代	東アジア・中央アジア	政治	160
1990	イ 清のモンゴル支配の特徴	近世	東アジア・中央アジア	政治	80
1990	ウ 清滅亡後の外モンゴルの変遷	近世・近代	東アジア・中央アジア	政治	160
1989	ア 義和団の特徴	近代	東アジア	政治・社会	200
1989	イ 義和団事件の八カ国連合軍の構成	近代	東アジア	政治・社会	100

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
1989	ウ マフディーの乱	近代	アフリカ	政治・社会	100

## 東方植民

次の図は、グリム兄弟の『ドイツ伝説集』に取められている有名な昔話「ハーメルンの子供たち」に登場する「笛吹き男」の絵である。この絵に関する下の文章を読み、問いに答えなさい。

一二八四年のこと、ハーメルンに一人の風変わりな男が姿を現した。(中略)自分は鼠捕りだと称し、一定の代金をもらえれば町から鼠を退治してやろうと公言した。町の人々はこの男と話をつけ、一定の報酬を与えようと請け負った。そう決まると鼠捕りの男は小さな笛を取り出し、それを吹きならした。すると即座に町のありとあらゆる家々から鼠がはい出してきて、男の回りに集まった。(中略)鼠をヴェーザー河のところまで連れ出すと、男は衣服をたくし上げて河の中へはいって行った。鼠もその後を追い、一匹残らず河に落ちおぼれて死んでしまった。

ところが町の人々は、苦しみから解放されてしまうと約束した報酬が惜しくなり、ありとあらゆる口実をもうけて男に金を与えることを拒んだので、男は立腹して町を去って行った。六月二六日、ヨハネとパウロの日の早朝七時に、別の言い伝えによれば正午に、この男は再び町に姿を現した。(中略)そして横町横町で例の笛を吹きならした。するとすぐさま、今度は鼠ではなく大変な数の子供が、四歳から上の男の子や女の子が走ってやって来た。その中にはもう成年に達していた市長の娘もいた。群れをなした子供たちはこぞって男の後についていった。男は子供たちを町から連れ出し、とある山の洞穴に入ると子供もろとも姿を消してしまった。(中略)全部で百三十人の子供が行方不明になった。(以下略)

(桜沢正勝・鍛治哲郎訳『グリムドイツ伝説集上巻』より引用。但し、一部改変)

ドイツの歴史学界では、この伝承は完全なフィクションではないと考えられ、「鼠捕り男」の正体や姿を消した子供たちの行方について、これまで様々な学説が打ち立てられてきた。その中の有力説の1つによれば、中世ドイツの東方植民が伝承の歴史的モチーフになったとされる。

問い 中世ドイツの東方植民の経緯を、送り出した地域の当時の社会状況をふまえて述べるとともに、植民を受け入れた地域が近代にいたるまでのヨーロッパ世界の中で果たした経済史的意義について、その地域の社会状況の変化に言及しつつ論じなさい。(400字以内)

## 解答例

温暖化や三圃制の導入により農業生産力が向上し、余剰生産物の交換による都市の復興をもたらした。しかし領主と都市間に法的な支配領域をめぐる緊張も強まり、農村では領主支配が強化され、過剰人口も生じた。一方東方の貴族やスラヴ系地域の王侯は、技術を持つドイツ系移民を好条件で募ったため、バルト海沿岸にはリューベックなどのドイツ人都市が建設され、農地の開拓も進んだ。教皇権の伸張により十字軍など宗教的情熱も高まると、キリスト教世界の拡大を求めてドイツ騎士団が進出し、ハンザ同盟によるバルト海交易が活発化した。東方の農民は当初比較的自由であったが、16世紀以降商工業が発達した西欧で都市人口が増加して穀物価格が上昇すると、オランダ商人による穀物買い付けが増大し、この地域は領主が農民の自由を奪って農奴化し、安価な輸出用穀物を栽培する農場領主制が普及して西欧への穀物供給地となり、国際分業体制形成の端緒となった。

ユグノー戦争

1598年のナントの勅令（王令）の公布は、16世紀後半のフランスで30年以上にわたって続いていた長い戦乱を終結させた出来事として有名である。では、この勅令（王令）公布に至るまでの経緯はどのようなものであったのか、またその目的は何であったのかを、当時の政治状況および宗教問題に焦点を当てながら説明しなさい。（400字以内）

解答例

フランスで貴族や商工業者にカルヴァン派のユグノーが増加すると、これに対し国王シャルル9世の母で摂政であったカトリーヌが融和政策をとった。そのためカトリック勢力の反発が強まりユグノー戦争が勃発し、ユグノーに対するサンバルテルミの虐殺なども起こった。戦争は貴族間の党派争いと結び付き、さらにスペインが旧教側を支援するなど外国勢力の干渉もあり長期化した。アンリ3世の暗殺でヴァロワ朝が断絶すると、ユグノーのナヴァル王アンリがアンリ4世としてブルボン朝を創始した。戦乱が続くなか、主権論を唱えたボーダンなど宗教対立よりも国家統一を重視する人々も増加しており、これを背景にアンリ4世は多数派の旧教に改宗し、その一方でナント勅令でユグノーにも信仰の自由を与えた。これにより宗教的対立を緩和する一方で、大貴族を抑制し、宗教を口実とする外国勢力の干渉を排除して、国王主権のもとで、絶対王政の基礎を築こうとした。

(397字)

## フス戦争の背景と意義

次の文章は、フス戦争の直前に、フス派（フシーテン）によって作成された「プラハの4カ条」の一部である。この文章を読んで、問いに答えなさい。

チェコの共同体と、神のもとに忠実なキリスト教徒たちは、……主イエス・キリストによって新約聖書のなかで命じられている以下の4カ条以外には何もなさず求めず、自らのあらゆる財産及び生死をかけて、可能な限り、神の加護を得て、これに反対するあらゆる人々に対抗しようとするものである。

4. 死に値する罪を犯した人々、とくに公然とあるいはそうでなくても神の法に背いた人々は、どのような身分であれ、しかるべき方法で、そのための職務を有する人々によって捕らえられ、取り締まられるべきであり、……

それらの罪とは、……聖職者においては、聖職売買の異端、そして洗礼や堅信、告解、神の体〔聖体〕や聖油〔の付与〕と結婚に際しての金銭の徴収、……死者のためのミサ、徹夜の祈禱、その他の祈禱などを有料として金銭を徴収すること、埋葬、教会の歌、鐘〔を鳴らすこと〕のための金銭の徴収、教会や礼拝堂、祭壇、墓地の聖職者の叙階における金銭の徴収、贖宥による金銭の徴収……などである。

（ヨーロッパ中世史研究会編『西洋史史料叢』より、一部改変）

問い フス戦争へと至った経緯を踏まえるとともに、フス派が何に対して戦っていたかに重点を置きつつ、その結果と歴史的意義を論じなさい。（400字以内）

## 解答例

14世紀初頭、教皇のバビロン捕囚でアヴィニョンに移転した教皇庁は、中央集権的な官僚制を整え、各司教区の叙任権を掌握し、各種の税を全カトリック圏に課した。その後大シスマで教皇庁の統制が揺らぐと、教皇庁による金銭の徴収への批判が高まった。ベーメンのフスはチェコ人の教会の教皇庁からの独立を主張し、新約聖書のチェコ語への翻訳を行った。しかし、15世紀初頭、フスは神聖ローマ皇帝ジギスムントが開催したコンスタンツ公会議で異端とされ、処刑された。さらにジギスムントがベーメン王となると、ベーメンのフス派は教皇と皇帝の支配に反発してフス戦争を起こした。戦争は皇帝とフス派穏健派の妥協によって終結したが、この結果教皇の普遍的支配が崩れ、ベーメンでは世俗権力が教会を支配下に置く構造が生じ、ルターの宗教改革と領邦教会の先駆となった。また、自立を求めたチェコ人の共同体意識が強化されたことで、近代の民族意識の起源となった。

### ヴォルムス協約の意義

「政治的主権者は、もしキリスト教徒であれば、かれ自身の領土における教会の首長である。キリスト教徒たる主権者たちにおける、政治的権利と教会的権利のこの統合から、政治と宗教との双方における人びとの外的行為を統治するために人間にあたえられうるかぎりの、あらゆる様式の権力を、かれらの臣民たちに対してかれらがもっているということは、明白である。そして、かれらは、コモン-ウェルスとして、および教会としての、かれら自身の臣民を統治するために、かれらが最適と判断するであろうような諸法を、つくっていいのであって、国家と教会とは、同一の人びとなのである。」（ホブズ『リヴァイアサン』水田洋訳より）

問い 17世紀に執筆されたこの文章は、当時のヨーロッパ世界になお残っていた政治・社会状況を前提に書かれている。中世のヨーロッパ世界では、11世紀後半から13世紀初頭にかけて、皇帝（世俗権力）と教皇（教会権力）との関係が大きな政治問題として顕在化していた。皇帝権と教皇権のあいだで展開された一連の政治闘争は、1122年の協約によって一応の結論に達したとされる。この争いが現実の政治・社会生活に対してもった意義とは、どのようなものだったのだろうか。1122年に締結された協約の意義にも言及しながら論じなさい。（400字以内）

### 解答例

10世紀半ばに成立した神聖ローマ帝国では、皇帝が叙任権を行使して教会を支配する帝国教会政策が採られ、聖俗両面を支配した。しかし教皇権は11世紀後半から俗人による聖職叙任を否定する叙任権闘争を開始し、カノッサ事件を経て1122年のヴォルムス協約で、授封権を皇帝に認める一方、叙任権を教皇に帰す聖俗分離の妥協が図られた。13世紀初頭の教皇インノケンティウス3世は破門を武器に各国君主を屈服させ、教皇の西欧における首位権を確立した。このことは、教皇庁を頂点とする汎西欧的な教会組織が、各国の世俗の君主から自立した別個の権力として存在することを可能とした。教会は、独自の教会法を保持し、裁判権を行使して世俗の領域にも干渉しつつ、中央集権的な官僚組織を整備して各地で様々な税を徴収した。そのため、世俗権力は領域の統一的支配を妨げられる一方、人々は、世俗の権力と教会権力の二重支配の負担を強いられることになった。（396字）

## 西欧世界の成立

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

カール大帝の帝国は、イスラムによってヨーロッパの均衡が崩壊したことの総決算だった。この帝国が実現しえた理由は、一方では東方世界と西方世界の分離が教皇の権威を西ヨーロッパに限定してしまったことであり、他方では、イスラムによるイスパニアとアフリカの征服がフランク王をキリスト教的西方世界の支配者たらしめたことである。それ故、マホメットなくしてはカール大帝の出現は考えられない、と言って全く正しいのである。古代のローマ帝国は7世紀には実質上すでに東方世界の帝国となっており、カールの帝国が、西方世界の帝国になった。

問い この文章は、ベルギーの歴史家アンリ・ピレンヌ（1862-1935年）による『マホメットとシャルルマーニュ』（日本語訳の標題『ヨーロッパ世界の誕生』）からの一節である。ここで述べられる「カール大帝の帝国」は、どのような経緯で成立したのか。当時のイタリア、東地中海世界の政治情勢、またマホメット（ムハンマド）との関係に言及しながら論じなさい。（400字以内）

## 解答例

当初は東ローマ帝国の影響下にあった西ヨーロッパ世界は、ムハンマドの創始したイスラーム勢力がシリアとエジプトを征服して東地中海の覇権を握ったことで、東ローマ帝国との連絡が遮断され、独自世界の形成に向かった。711年にイベリア半島の西ゴートがウマイヤ朝に滅ぼされると、ガリアのフランクが統合の中心となった。一方、北イタリアのランゴバルドに圧迫されていたローマ教会は、東ローマ皇帝の保護に頼ることが困難となり、自立傾向を強めてゲルマン布教を推進した。このような状況で、東ローマ皇帝が726年に聖像崇拝禁止令を出すとローマ教会は反発し、732年にトゥール=ポワティエ間の戦いでイスラームの進出を阻止したフランク王国に新たな保護者を見出して接近を強め、カロリング朝の成立を支援して提携を強化した。フランク王国がランゴバルド王国を滅ぼし、西方世界を統一すると、800年にカールの戴冠が行われ、西欧世界が成立した。

### ハンザ同盟の盛衰

西ヨーロッパでは11,12世紀の経済発展により、遠隔地商業が盛んに行われるようになった。13世紀から17世紀初めのハンザ同盟の活動について、担い手、地域、交易品、そして衰退の理由に触れつつ、同時代の東方（レヴァント）貿易と対比して論じなさい。（400字以内）

### 解答例

東方貿易は北イタリア都市が地中海を舞台にイスラーム世界やビザンツ帝国から香辛料や絹織物を輸入した交易だった。それに対しハンザ同盟は北ドイツ都市の同盟で、北海とバルト海の沿岸各地に商館を置き、北欧の木材・海産物、東欧の穀物・毛皮、フランドルの毛織物、イギリスの羊毛などを取引した。ハンザ同盟の活動は13世紀から14世紀に全盛を迎えたが、15世紀にはデンマーク・スウェーデン・ノルウェーが結成したカルマル同盟がバルト海交易をめぐってハンザ同盟に対抗した。16世紀には東方貿易が大航海時代の到来で停滞したのに対し、エルベ川以東の東欧が西欧への穀物や木材の供給地となる分業体制が成立したことで、北海・バルト海貿易は発展した。しかしその貿易はバルト海直航ルートを開いたオランダ商人に支配され、さらに周辺諸国の集権化やイギリスの重商主義政策などでハンザ商人は在外商館設置などの商業特権を失い、同盟は衰退していった。

### フランク王国の分裂と東フランクの発展

カール大帝とその後継者ルートヴィヒ1世の死後、フランク王国は分裂の道歩んだ。その過程で東西王国のいずれにおいてもカロリング家の血統に属さない国王が現れ、新しい独自の王国が形成された。王国は後にさらに発展し、西欧中世世界の中心となっていく。とくに東側の王国は神聖ローマ帝国の中核部を構成した。フランク王国の分裂と東側の王国の成立と発展の過程を、分裂に関わる二つの条約の締結から神聖ローマ帝国の初代皇帝となる国王の選出にいたるまでの期間について記しなさい。その再、二つの条約と以下の語句を必ず使用し、その条約名と語句に下線を引きなさい。語句を用いる順序は自由である。(400字以内)

マジヤール人    ロートリンゲン    ザクセン朝    ハインリヒ1世

### 解答例

フランク王国は継承争いから、843年のヴェルダン条約で、西フランク、中部フランクと北イタリア、東フランクに三分割された。その後ロートリンゲンと称される中部フランクは870年のメルセン条約で西フランクと東フランクによって分割され、現在のフランス、ドイツ、イタリアの基礎が定まった。マジヤール人の侵入に苦しんだ東フランクでは、部族を単位として支配する各地の有力諸侯が、自衛のために武装して自立し、地域防衛機構としての封建制が発展した。カロリング家の血統が絶えると、東フランクでは諸侯による選挙王政となった。国王に選出されたザクセン公のハインリヒ1世は、諸侯の軍事力を束ねてマジヤール人に対抗し、部族諸侯との間にも封建関係を確立し、長子のオットーに王位を継承させてザクセン朝を開始した。これにより、王家による王国の分割相続というカロリング家の伝統に代わり、諸侯の連合体である王国の不分割相続の原則が成立した。

### オットーの皇帝戴冠の歴史的意義

フランク王オットー1世（在位936～973年）の皇帝戴冠は、中世ヨーロッパ世界に一つの転機をもたらしたといわれる。彼は、10世紀半ばのイタリア情勢に対応してアルプスを越えて南下し、962年2月にローマで皇帝としての冠を受けた。このとき地中海の周辺には、東方にビザンツ帝国が、また地中海の南岸とイベリア半島にはイスラム勢力があった。オットー1世の皇帝戴冠の歴史的意義を、9～10世紀の地中海世界の政治動向との関係に言及しながら論じなさい。（400字以内）

### 解答例

9世紀にはフランク王国が分裂し、ノルマン人とマジャール人の侵入もあって西欧世界は混乱状態に陥った。皇帝位も不在となり、教会の世俗化もあって教皇の権威も低下した。特にイタリアは875年のカロリング朝断絶後はイタリア王が空位となり、政治的不安定が続いた。一方地中海域ではイスラム勢力が強大化した。9世紀にはシチリア島を占領し、10世紀にはカリフを称したファーティマ朝が南岸を制圧し、同じくカリフを称したイベリア半島の後ウマイヤ朝とともに西欧世界を圧迫した。さらにビザンツ帝国が勢力を回復し、バルカン半島のスラヴ人に布教を進めてギリシア正教圏を拡大した。このような状況でマジャール人の侵入を撃退し、北イタリアも支配したオットー1世が皇帝の冠を受けたことは、イスラム圏とギリシア正教圏に包囲されて危機に瀕したカトリック圏の安定を回復し、皇帝と教皇を普遍的権威とする西欧世界を再確立するものであった。

### 身分制議会

中世後期のヨーロッパ大陸諸国において、君主によって設けられ、招集される議会が生まれた。フランスの三部会、ドイツの等族議会が良く知られているが、その他にスペインのコルテス、ポーランドのセイムなどがあり、諸身分や団体の代表が出席した。これらは「身分制議会」と呼ばれるが、その歴史的な経緯と主な機能、そしてその政治的役割について、特に近代の議会との違いに留意しながら具体的に述べなさい。(400字以内)

### 解答例

身分制議会は、中世的な諸団体を代表し、身分秩序維持の役割も果たした点で、諸団体を解体して等質な国民を直接代表する機関となった近代の議会と相違する。身分制議会は、教皇との対立を背景に成立したフランスの三部会に代表されるように、王権が台頭していく過程で各地の自立的な団体を統合する機関として成立した。議会を通じて王権は地域や職能団体への課税を可能とし、議会は王権の全国的展開の拠点となったが、やがて諸団体は議会の課税協賛権を武器に王権に対抗し、既得権益の保持を主張するようになった。そのため、さらなる王権の強化が行われたフランスやスペインでは議会は弾圧され、フランスの三部会はルイ13世時代に停止され、スペインのコルテスはイサベラとフェリペの両王によって機能が制限された。一方、王権が弱体化したドイツの帝国議会やポーランドのセイムは、自立した地方権力による連邦制的な緩やかな統合と利害調整の場となった。

### ドイツとイギリスの宗教改革

宗教改革は、ルターにより神学上の議論として始められたが、その影響は広範囲に及び、近代ヨーロッパ世界の形成に大きな役割を果たした。ドイツとイギリスそれぞれにおける宗教改革の経緯を比較し、その政治的帰結について述べなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(400字以内)

アウクスブルクの和議 首長法

### 解答例

ドイツでは、教義問題から贖宥状に反対する九十五カ条の意見書を発表し、宗教改革を開始したルターが、ドイツ農民戦争で領主側に立ったことで、諸侯や都市が宗教改革の中心となった。ルター派諸侯はシュマルカルデン同盟を結成して皇帝や旧教派諸侯と抗戦し、最終的に両者はアウクスブルクの和議で、ルター派かカトリックかの選択権を領邦が持つことで妥協した。領邦君主が領域内の教会を支配下に置く領邦教会制が確立したことで、ドイツでは各領邦が統治権を強化し、皇帝権が弱体化した神聖ローマ帝国にかわって主権国家の形成の主体となった。イギリスでは、ヘンリ8世が離婚問題から首長法を制定し、国王を教会の長とするイギリス国教会を組織してローマ教会から独立するとともに、修道院を解散させ、その土地財産を没収し、地主層に払い下げてその支持を獲得した。これによってイギリスでも君主による教会支配が確立し、絶対王政の基盤が整備された。(397字)

## 15世紀のイタリア

15世紀イタリア社会の動向は、オスマントルコの小アジア、バルカン地方への進出と深く関係していた。トルコ勢力の攻勢の前に領土縮小を余儀なくされたビザンツ皇帝が自ら西欧に赴き、援軍の要請を行ってイタリア社会に大きな影響を与えたし、この時期多数のギリシャ人が到来して、この地の文化活動にも影響を与えたからである。オスマントルコの進出に伴うこの東西キリスト教世界の交流と、それが15世紀イタリア社会に与えた影響について論じなさい。

### 解答例

オスマントルコの圧迫に対してビザンツ帝国が支援を求めると、教皇庁は東西キリスト教会統一の好機ととらえ、ローマカトリック教会優位の教会統一をビザンツ側に了承させた。しかし、諸勢力の分立状態にあったイタリアは、ビザンツ帝国支援のための一体的な取り組みを行わず、地中海貿易の覇権を得ていたヴェネツィアはコンスタンティノープルの商圏を狙ってむしろ支援に消極的であった。1453年ビザンツ帝国は滅亡し、教会統一も失敗した。しかし、この前後にギリシア語文献とともにビザンツ帝国の学者がイタリアに亡命してきたことは、人文主義者によるギリシア古典研究を盛んとし、イタリアルネサンスを促進した。オスマントルコの進出によって黒海沿岸の植民都市を失ったジェノバを初めとしたイタリア人は西方に関心を向け、西欧各国との経済的つながりを強化する一方、ポルトガルが開始した大航海事業に技術者や航海者として参入する者も出現した。

## 教会改革運動

ウルバヌス2世が十字軍の必要性を訴えて聴衆の熱狂的な支持を受けたのは、クレルモン公会議でのことである。この演説は閉会式で行われたといわれるから、もともこの会議の主題は十字軍ではなかった。参加者もそれを予想してはいなかった。しかし、この会議には多数の高位聖職者が集まり、会場は熱気に満ち溢れていた。多数の聖職者たちの行列を見るためにあふれ返るほど多くの群衆も集まっていた。これほどの熱気と多数の人々をここにもたらしたのは、クレルモン公会議が重要なものと認識されていたからである。この会議は、彼の2代前のローマ教皇によって開始されていた、ローマ教皇と神聖ローマ皇帝の熾烈な戦いの一環として開催されたものだった。ウルバヌス2世は、ローマ教皇としての自己の権威を広め確立するためにフランスでこの公会議を開催し、教会改革を推進することを目指した。公会議はそのためにいくつかのことを決議した。したがって、十字軍が提唱されたのも、聖地の解放を目指すとともに、ローマ教皇がキリスト教世界の指導者であることを示すためだった、と考えることができるだろう。第1回十字軍の間にもなお教会改革をめぐる争いが続けられていた、ということをおぼろげに忘れてはいけない。

問題. ウルバヌス2世の前からはじめられ、1122年に一応の妥協をみた「熾烈な戦い」の名称を記し、その過程について説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(400字以内)

クリュニー修道院 破門 ハイน์リヒ5世

## 解答例

叙任権闘争。西欧の世俗君主は領内の高位聖職者の叙任権を握り教会を支配したが、これによって聖職売買などの悪習が横行した。そこでクリュニー修道院を中心に教会刷新運動がおこり、その影響を受けた教皇グレゴリウス7世が、聖職売買を禁止し、世俗君主による聖職叙任を否定した。これに対して、帝国教会政策をとり、教会支配を帝国統治の基盤の一つとしていた神聖ローマ皇帝ハイน์リヒ4世が反発したため、皇帝と教皇の抗争である叙任権闘争となった。皇帝は教皇に破門されたが、大諸侯の離反を招いたため、カノッサの屈辱とよばれる教皇への謝罪を行った。この後も教皇と皇帝の対立は続き、叙任権闘争を継承した教皇ウルバヌス2世がクレルモン公会議で十字軍を提唱して聖地回復に成功すると、教皇権が上昇し、教皇カリクストゥス2世の時には皇帝ハイน์リヒ5世との間でヴォルムス協約が結ばれ、教皇の聖職叙任権が認められて、叙任権闘争は一応集結した。(400字)

### ヨーロッパ世界の形成

10世紀後半から11世紀にかけて、地中海世界は大きな歴史の転換期を迎えていた。キリスト教世界は拡大し、ローマ皇帝位をめぐる政治交渉も見られた。「ヨーロッパ世界の形成」という観点から当時の事情について述べ、その政治的・宗教的背景について説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。  
(400字以内)

ビザンツ帝国 オットー1世 ウラジミール1世 ファーティマ朝

### 解答例

マジヤール人の侵入を退けた東フランク王オットー1世は、ローマ教皇から帝冠を受け皇帝権を復興し、ビザンツ帝国からも皇帝位の承認を得て、分裂傾向にあった西欧世界に求心力を回復した。しかし教会組織を国家統治に利用する帝国教会政策を推進したことは、後にローマ教会との間で叙任権闘争を引き起こす原因になった。一方首位権をめぐる東西教会の対立が先鋭化する中で、皇帝が教権を支配するビザンツ帝国では、ブルガリアを初めとしたスラヴ世界に布教が行われ、キエフ公国のウラジミール1世もギリシア正教に改宗し、ギリシア正教圏がロシアにも拡大した。地中海でも、ファーティマ朝成立によるイスラム世界の混乱に乗じてキリスト教勢力が進出し、シチリア島などを奪回するとともに、コンスタンティノープルやヴェネツィアが商業利権を確保していった。こうして二つのキリスト教が対立し、地中海貿易の利権を争う東西ヨーロッパ世界が形成された。

(397字)

### ドナウ帝国の発展

ハプスブルク家は1438年から神聖ローマ帝国の皇帝位を世襲したが、その絶頂をむかえた16世紀にスペイン系とオーストリア系にわかれた。後者はいわゆる「ドナウ帝国」として東ヨーロッパへその支配領域を拡大していくが、その契機はモハーチの戦い（1526年）の後にチェコとハンガリーの王位を継承したことにあった。以上の点をふまえ、その後の領域拡大と支配強化の経緯について次の語句を用いて説明しなさい。なお使用した語句には下線を引いて明示すること。（400字以内）

ウィーン包囲 三十年戦争 カルロヴィッツ条約 ポーランド分割

### 解答例

ハプスブルク家は三十年戦争の原因となったベーメン反乱を鎮圧し、ベーメン支配を強化したが、戦争の結果、神聖ローマ皇帝権は有名無実化した。そのため自領経営に重点を置き、第二次ウィーン包囲撃退後はオスマン帝国を圧迫してカルロヴィッツ条約でハンガリーを奪回した。マリア＝テレジアはオーストリア継承戦争、七年戦争でシュレジエンを失ったが、行政制度の整備に努め、ヨーゼフ2世は宗教寛容令など啓蒙主義による中央集権化を模索し、ポーランド分割に参加して東欧に領土を拡大した。19世紀前半にはウィーン体制の中心となって民族運動を抑圧したが、1866年に普墺戦争に敗北すると、ハンガリーのマジャール人と妥協してオーストリア・ハンガリー二重帝国を成立させ、中東欧の多民族支配体制とパン＝ゲルマン主義でのドイツとの同盟を背景にパン＝スラブ主義と対抗しつつバルカン半島への進出を図り、ボスニア・ヘルツェゴビナを併合した。

### ノルマン人とイングランド王朝

8世紀後半から11世紀にかけて、ノルマン人の活動はヨーロッパ全体に大きな影響を及ぼしたが、とりわけイングランド初期の歴史には密接な関わりを持っている。9世紀初めから11世紀までのイングランドの王朝の変遷を、次の語句を用いて説明するとともに、それが11世紀以降に及ぼした政治的影響について述べなさい。(400字以内)  
七王国(ヘプターキー) ロロ ヘースティングズの戦い

### 解答例

アングロ=サクソン族の移動によってブリテン島南部に分立した七王国は、829年にエグベルトによって統一され、イングランド王国が成立した。ノルマン人の一派デーン人の侵入が激化すると、9世紀後半にアルフレッド大王が反撃に転じたが、11世紀初頭にはデンマークのカヌートによって征服された。カヌートはノルウェー王も兼ねて北海を支配する帝国を築いたが、死後その帝国は解体し、イングランドにはアングロ=サクソンの王朝が復活した。その後、北フランスにノルマン人の首長ロロが封じられて成立していたノルマンディー公国のウィリアムが、1066年ヘースティングズの戦いでアングロ=サクソン軍を破り、ノルマン朝を建てた。このフランス貴族によるイングランド征服は、大陸の封建制導入による強力な王権を誕生させるとともに、イングランドとフランスの対立を不可避のものとし、後のプランタジネット朝とカペー朝の抗争や百年戦争の遠因となった。

### イギリス・ドイツの人口変動と社会

次のグラフは、イギリス（イングランドおよびウェールズ）とドイツの人口の歴史的変化の推計値を表にしたものである。両国の人口変動を比較して、下記の問いに答えなさい。

（イギリスとドイツの人口変動の表）

問1 両国の人口変動で最大の違いは何か、またこの違いが生じたのは、両国の政治・社会状況のいかなる違いによるものか、説明しなさい

（200字以内）

問2 16世紀には両国とも人口が増加しているが、その経済的原因について述べなさい。（200字以内）

### 解答例

問1 最大の相違は17世紀イギリスの人口が停滞しているのに対しドイツの人口が激減した点にある。17世紀は気候の寒冷化やペストの流行・凶作などで全体に人口の伸びが止まった。イギリスではピューリタン革命・名誉革命が起きたが戦禍は軽微で、ジェントリ支配体制には変化はなく社会は安定していた。ドイツは国際戦争に発展した三十年戦争の戦場となり、政治秩序の混乱と戦争の長期化によって国土は荒廃し、人口も激減した。

問2 大航海時代以降、16世紀には新大陸とアジアを含む国際貿易体制が成立し、銀の流入による価格革命もあってヨーロッパ経済が活発化した。特にネーデルラントを中心に新航路に有利な大西洋岸地域が発展した。中世以来ネーデルラントと結びつきがあったイギリスとドイツは、その後背地として近世ヨーロッパ経済の分業体制に取り込まれ、イギリスは羊毛生産と毛織物業を、ドイツは農場領主制の下での穀物生産を発展させた。

### キリスト教と4-5世紀のローマ帝国

キリスト教は、4世紀末にローマ帝国の国教となることで、その後のヨーロッパの歴史に多大な影響を及ぼした。しかし、その現実決して単純なものではなかった。教会そのものが完成された組織とは言い難く、その分裂の事態は帝国支配のはらむ政治問題でもあったからである。その間の事情を4～5世紀のローマ帝国の政治・社会状況に即して、以下の用語を用いながら述べなさい。その際、ローマ帝国と東方属州地域との政治的関係に触れること。なお、用語を最初に用いた箇所に下線を付しなさい。(400字以内)

テオドシウス帝 五本山 単性論 カルケドン公会議

### 解答例

コンスタンティヌス帝は帝国統一の必要からミラノ勅令でキリスト教を公認した。しかし教会内で教義の対立があったためニケーア公会議を開き、アタナシウス派を正統、アリウス派を異端とした。392年テオドシウス帝がキリスト教を国教としたため、キリスト教は帝国の支配体制を支える宗教となった。しかしその死後、帝国は東西に分裂し、西ローマ帝国は早くに滅亡した。一方、この間成立した五本山のうちローマ教会以外がその領域にあった東ローマ帝国は、ローマ帝国の伝統をひきつぎ、皇帝は教会を支配して中央集権的一元支配を維持したが、5世紀にはネストリウス派や単性論が台頭したため、それぞれエフェソス公会議とカルケドン公会議で異端とした。しかし単性論は帝国から自立を求める東方属州地域の教会内でその後も勢力を拡大し、帝国の不安定要因となった。また首位権を主張するローマ教会も東ローマ帝国に対する反発を強め、教会の分裂傾向は強まった。(400字)

### 中世と近世の農業革命

中世から近代にいたる西ヨーロッパの人口を正確にとらえることは困難であり、どうしても推計に頼らざるをえないが、歴史家による推計値はかならずしも一定していない。また、人口変動は当然ながら国や地域によって相異なった傾向を示す。とはいえ、長期的に見ると、西ヨーロッパ全体で明らかに次のような三度の大きな人口変動の波を確認することができる。

- (1) 14世紀前半を頂点とする人口増加とその後の減少
- (2) 15-16世紀の人口成長と17世紀の人口停滞
- (3) 18世紀後半以降の飛躍的人口成長

これら三つの大きな人口変動をひきおこした要因は多様でありうるが、人口増加を支えた経済的要因としてとくに注目しなければならないのは、農業における食糧増産である。上記の三時期のうち(1)と(3)とでは、食糧増産である。上記の三時期のうち(1)と(3)とでは、食糧増産に結びつく農業の制度的ならびに技術的変化にどのような基本的相違があったか、述べなさい。

### 解答例

(1)の時期では従来の二圃制にかわって、小麦栽培の秋耕地、大麦栽培の春耕地、休耕地に土地を三分して輪作し、休耕地と共有地で家畜放牧を行う三圃制の新農法と、重量有輪犁や水車などの新技術が普及し、食糧生産が増大した。生産性の低い領主直営地は廃止され、古典荘園から純粹荘園への転換も進んだ。新農法に伴う共同作業の必要性は農村共同体を成立させ、それに対する領主支配権の確立によって封建制度も完成した。一方で農村共同体による自治の拡大は、身分解放の要求を高め、独立自営農民出現の基盤となった。

(3)の時期では大麦、クローヴァー、小麦、蕪を連作して休耕地を消滅させ、飼料作物栽培で家畜を舎飼するノーフォーク農法が普及した。しかしイギリスでは、大農場形成のため共有地を奪う第二次囲い込みが推進され、農村共同体は崩壊して独立自営農民は消滅し、地主から農業資本家が土地を借りて農業労働者を雇う資本主義的大農場経営が確立した。

(399字)

### 三十年戦争の影響

ドイツを舞台とする宗教戦争としてはじまった三十年戦争は、ドイツに政治的利害と領土的野心をもつフランスとスウェーデンなどの介入をまねき、多数のヨーロッパ諸国が関与する戦争となった。また、その講和会議はヨーロッパ最初の国際会議とされる。以上のような点に留意しながら、三十年戦争の結果と、それが後のドイツに及ぼした影響について述べなさい。(400字)

### 解答例

ボヘミア新教徒の反乱に始まり、ドイツは新教側と旧教側に二分され内乱となった。ルター派のデンマーク、スウェーデンが新教側を支援して参戦したが、劣勢になると旧教国フランスが反ハプスブルク政策で新教側を支援した。1648年のウェストファリア条約で終結し、新教はカルヴァン派も公認され、神聖ローマ帝国の領邦主権が確立し、主権の不可侵も確認された。オランダ・スイスの独立が承認され、フランスはアルザスなど、スウェーデンは西ポメラニアを獲得した。こうしてハプスブルク家が退潮し、フランスのブルボン朝が国際政治で優位に立つとともに、普遍的権威であった皇帝権や教皇権が没落し、併存する主権国家が条約と国際法で秩序づけられる国際体制が確立した。ドイツでは領邦国家を単位とした主権国家の形成が進んで神聖ローマ帝国による統一国家形成は困難となり、その中で戦災の少なかったプロイセンとオーストリアが台頭した。☒☒

### ヨーロッパ中世都市の自由

次の史料は、神聖ローマ帝国内の都市ゴスラーの1219年の都市法第2条に記されているものである。この史料を読んで、下記の2問に答えよ。

もしあるよそ者がこの都市に居住のためにやって来て、そこで一年と一日滞在する間、その者の隷属身分について訴えられ、立証され、自供させられることがなければ、他の市民たちと共通の自由を享受すべきである。そして誰であれその者を自分の隷属民とみなしてはならない。

問1.ここで宣言されているヨーロッパ中世都市の「自由」の内容と性格について具体的に記せ(200字)

問2.ヨーロッパ中世都市の市民はこの自由を維持するためにどのような方策をとったか、具体例をあげて説明せよ。

### 解答例

#### 問1

都市の自由は封建領主よりの自由であった。都市は封建領主から特許状を獲得して自立し、参事会が市政に当たり、裁判権・立法権・課税権を行使し、独自の都市法を制定した。都市に流入した農奴は、1年と1日で都市民として農奴身分から解放された。しかし参事会は当初商人ギルドの大商人によって支配され、ツunft闘争を通じて参政権を得た同職ギルドにおいても、徒弟制度の下で、親方だけがギルド員として権利を認められていた。

#### 問2

都市は諸侯に対抗するため、皇帝や国王の特許状を獲得してその保護を得た。また城壁を構え、独自の軍隊を持って外敵に備え、都市相互でも同盟を結んだ。北ドイツ諸都市が結成したハンザ同盟は、バルト海・北海の商権を確保して、デンマーク王と対抗した。都市共和国が成立したイタリアでは、神聖ローマ皇帝がイタリア支配を目指したイタリア政策に対し、北部の都市はミラノを盟主とするロンバルディア同盟を結成して戦った。

### 教皇権の絶頂

教皇権が絶頂に達したのは、第4回十字軍をおこした教皇の時代といわれる。この教皇は東方だけでなく、ヨーロッパの内部にも十字軍を送っている。いわゆる異端討伐の十字軍である。これは、宗教と政治の双方においてともに重大な歴史的結果を生み出した。この十字軍の名称とそれを最初に主唱した教皇名を明らかにしつつ、その過程と結果を下記の語を用いて説明せよ。(400字)

カタリ派 ドミニコ派修道会 ルイ9世

### 解答例

カタリ派はマニ教の影響を受け、霊肉二元論と厳しい禁欲を説く中世カトリック教会の異端で、南フランスではアルビジョワ派と呼ばれ、諸侯の保護を受け民衆の間にも浸透していた。異端は12世紀の都市の発展とともに、カトリック教会とは離れて独自の布教活動を行う一派として多く発生した。托鉢修道会のフランチェスコ派修道会もこれに類似する点があったが、教皇インノケンティウス3世は13世紀初めにフランチェスコ派を認可して民衆の取り込みを図る一方、アルビジョワ派に対する十字軍を宣言した。十字軍は北フランス諸侯と南フランス諸侯の抗争となったが、最終的にフランス王ルイ9世が介入して南フランスを平定し、異端審問を積極的に行ったドミニコ派修道会の活動もあってアルビジョワ派の根絶に成功した。この結果中世カトリック教会が安定化するとともに、南フランス諸侯の領土を奪って南フランスの王領地化に成功したフランス王権も伸張した。(396字) ☒

古代地中海世界の解体

西ローマ皇帝アウグストゥルスがゲルマン人傭兵隊長オドアケルに廃位されて以後、八世紀半ばに至るまで、旧ローマ帝国領だった地中海域には民族の移動を含む大きな政治的变化が生じた。これらの变化を、次の三つの人名を用いて説明せよ。(400字)

ユスティニアヌス帝 ムハンマド (マホメット)

カール (チャールズ) ・マルテル

解答例

西ローマ帝国滅亡後、その領域にはゲルマン人国家が分立していたが、6世紀に東ローマ帝国のユスティニアヌス帝が地中海世界の回復を実現した。しかしその死後その統一は失われた。7世紀にムハンマドによって創始されたイスラーム教の勢力がシリア・エジプトを支配し、8世紀には北アフリカからイベリア半島まで制圧した。この結果、地中海世界から遮断されたゲルマン世界は、カール=マルテルがトゥール-ポワティエ間の戦いでイスラームを阻止したフランク王国を核に荘園経済を基盤とする独自世界の形成に向った。さらに聖像禁止令を機に東ローマ皇帝から自立を模索したローマ教会がフランク王国に接近し、カロリング朝成立を支援したことで、独自の西欧文明圏が成立していった。こうして地中海世界は、イスラーム教を中心とするイスラーム世界と、ギリシア正教会を中心とするビザンツ世界と、ローマ=カトリックの西欧世界の三つの文化圏に分裂していった。

(400字)

中世キリスト教世界とマジャール人の侵入

次の文章を読んで、下記の問に答えよ。

中世のキリスト教的ヨーロッパ世界は、およそ500年の間に三度にわたるアジア系非キリスト教諸民族の侵入を経験した。9-10世紀にかけてのマジャール人の間断ない侵入、13世紀なかばにおける突風のようなモンゴルの侵入、および14世紀後半からはじまったオスマン・トルコの怒濤の進出がそれである。こうした「異教的異民族」の侵入を受けて、そのたびにヨーロッパの政治地図は大なり小なり塗り替えられるとともに、それは折々のヨーロッパ内部の政治体制にも大きな影響を与えた。中世ヨーロッパ世界が経験したアジア系民族の最初の侵入であるマジャール族のそれに関連して、以下の問いに答えよ。

- (7) 9世紀なかば、ドン川・ドニエプル川間の生活圏を追われて西方に移動を始めたこのアジア系遊牧民族が、10世紀中に、西スラブ世界を南北に両断するような形で定住し、みずからの国を建てるに至った経過を略述せよ。その際、9世紀末まで西スラブ諸族に広く影響を及ぼしていた大国とその運命についても言及せよ(200字)
- (4) ヨーロッパ諸国のなかで、マジャール族の脅威をもっとも深刻に蒙ったのは東フランク王国であったが、919年、はじめてザクセン族出身の貴族として王位についたハインリッヒ1世(ヘンリー1世)とその子オットー1世は、いくつかの重要な戦いに勝利し、この外敵の侵入を終わらせることによって、王としての不動の地位を固めたのみならず、キリスト教世界の防衛者として西欧世界全体における最高位につくに至った。その経過を具体的に記せ(200字)。

解答例

アジア系のマジャール人は、9世紀末に西スラヴ人のモラヴィア王国を滅ぼした。この時、マジャール人の支配下に入った人々がスロヴァキア人の祖となり、支配を免れて西方のベーメンに拠点を移し、ベーメン王国を建国した人々がチェコ人の祖となった。マジャール人は東フランクに侵入を阻まれると、パンノニア平原を拠点にハンガリー王国を建国し、神聖ローマ皇帝に対抗するため、教皇の権威を頼ってカトリックを受容した。東フランクはカロリング朝断絶で選挙王制に移行したが、最初の王コンラート1世はマジャール人に敗北したため王朝を創始できなかった。ハインリヒ1世は諸侯と封建契約を結んでその軍事力を束ね、マジャール人の侵入を防いだことで、息子のオットー1世への継承に成功した。オットー1世はレヒフェルトの戦いに勝利してマジャール人を撃退し、イタリアに遠征して教皇ヨハネス12世より帝冠を受け初代の神聖ローマ皇帝となった。

キリスト教と技術・科学

聖フランチェスコを理解する鍵は、個人としてだけでなく、類としての人間がもつべき謙遜の徳に対する信念である。聖フランチェスコは人間が被造物に対して専制君主として振舞うことを拒否し、神のすべての被造物の民主主義を築こうとした。……いままに進行しつつある地球の環境破壊は、西欧の中世世界に始まる精力的な科学と技術の発展の産物であり、それに対して聖フランチェスコは彼独特の仕方でも反抗したのであった。科学と技術の成長は、キリスト教の教義に深く根ざしている自然に対する態度を無視しては歴史的に理解できないものである。(リン・ホワイト・ジュニア『機械と神』)

(ア) この文章は技術史家リン・ホワイト・ジュニアのものである。著者はキリスト教が科学と技術ならびに自然との関係にどのような結果をもたらしたと考えているのか、説明せよ(200字)。

(イ) 聖フランチェスコは既存の教会や社会のあり方に対してどのような態度をとったのか。例文の趣旨にこだわらず答えよ(200字)。

解答例

ア

キリスト教は、神は自らに似せて人間を作ったとし、神の被造物の中で人間が最上位にあるとする価値観を生み出した。そこから、人間が自然に対して支配者としてふるまうことが肯定され、その結果、人間にとって自然は分析と研究の対象となり、科学の発展の背景となった。しかし一方で、自然は人間にとって利用すべきものであるとの考えが、森林破壊や、化石燃料の無秩序な使用による大気汚染や温暖化などにつながった。

イ

聖フランチェスコは、従来の修道院が荘園領主として資産を保持し、高位聖職者の贅沢な生活を戒め、イエスとその使徒たちの清貧の共同体への回帰を訴え、信者の寄付のみで運営する托鉢修道会の運動を開始した。しかし、後の宗教改革運動とは異なり、ローマカトリック教会の教義や、ペテロの後継者としての教皇の権威はこれを認め、ローマ教皇インノケンティウス3世に認可を求めるなど、カトリック教会の枠内での活動を志向した。

## 神聖ローマ帝国

次の文章を読んで、下記の問い(ア)(イ)に答えよ。

ところで教皇は、ギリシア人と、世襲的なローマ皇帝であるコンスタンティノーブルの皇帝とを、彼の意のままに強制することができなかつたので、こんな策略を考え出しました。つまり、この皇帝から帝国と称号を奪い、そのころ勇敢で大いに名声をあげていたドイツ人にこれを授与し、それによってドイツ人がローマ帝国の権力を掌握し、これを知行として治めるようにしよう、というわけです。そしてまた事実そうになりました。コンスタンティノーブルの皇帝からローマ帝国は奪い去られ、その名前と称号は、私どもドイツ人に帰属せしめられたのです。ドイツ人はこのことによって教皇の下僕となり、いまや教皇がドイツ人の上に建てた第二のローマ帝国が成立するに至りました。なぜなら、あの第一のローマ帝国は、前述のごとく、つとに滅亡していたからです。

(ルター「キリスト教の改善についてドイツ国民のキリスト教貴族に与う」成瀬治訳)

(ア) ここでルターが述べている第二のローマ帝国成立についての歴史的事実を述べ、これに関係する西ヨーロッパにおける中世の政治理念について説明せよ (300字)。

(イ) ルターが「教皇の下僕」という言葉で表現した事情は具体的に何を指していたか (100字)

## 解答例

ア

西ローマ帝国滅亡により東ローマ皇帝の保護下に入ったローマ教会は、皇帝に直属するコンスタンティノーブル教会と首位権をめぐる対立を深めつつ、勢力基盤確立のためゲルマン布教を推進した。726年に皇帝レオン3世により発布された聖像禁止令に反発してフランク王国に接近し、ピピンによるカロリング朝成立を支持し、800年にはカールを西ローマ皇帝として戴冠した。これにより東ローマ帝国から政治的・宗教的に自立し、皇帝権と教皇権が併存する西欧世界が成立した。フランク王国分裂後の混乱を経て962年に東フランク王オットー1世が皇帝に戴冠すると、以後ドイツ王が西欧の皇帝を兼ねることが慣行となり、神聖ローマ帝国が成立した。

イ

神聖ローマ帝国では、当初皇帝が司教叙任権を掌握したが、教皇グレゴリウス7世は聖職売買としてこれを否定して叙任権闘争となり、カノッサ事件を経てヴォルムス協約によって教皇に叙任権が帰した。

## フランス革命の性格

フランスの歴史家アルベール・マチエはその著書『フランス革命』の第一巻を「君主制の瓦解（一七八七年—一七九二年）」とし、その第二章を「貴族の反乱」とした。王室財政の破綻がこのままでは不可避とみた国王政府は、貴族への課税を中心とする改革案を作り、主として大貴族からなる「名士会」を1787年に召集して改革案の承認を求めたが、「名士会」は、貴族が課税されることよりも、むしろこのように臨時にしか貴族が国政に発言できない政治体制そのものを批判し、全国三部会の開催を要求した。マチエはこの「名士会」の召集から『フランス革命』の論述を始めたのである。従来は1789年に始まると考えられていたフランス革命の叙述を1787年から始めたのはマチエの卓見であったが、1787年-88年の段階は「革命」ではなく「反乱」とされた。それに対してジョルジュ・ルフェーヴルは「フランス革命と農民」と題する論文において、マチエの「1787年開始説」を引き継ぎながら、「…したがって、フランス革命の開始期ではまだブルジョワ革命ではなくて貴族革命である。貴族革命は結局流産したが、それを無視してはブルジョワ革命を説明できないであろう。（中略）フランス革命の火蓋はそのために減んで行く階級によってきられたのであって、そのために利益をえる階級によってではなかった」と記し、マチエが「貴族の反乱」と呼んだものを「貴族革命」と言い換えた。他方、この論文の訳者である柴田三千雄氏はその著書『フランス革命』において「まず、フランス革命はいつからいつまでかといえ、一七八九年から九九年までの約一〇年間とみるのが、通説です。貴族の反抗をいれると十二年になります、それはいわば前段階です。」として「反乱（もしくは反抗）」についてはマチエ説に立ち返るとともに、フランス革命の叙述を1789年から始めている。

1787年—88年の貴族の動きが「反乱（もしくは反抗）」であるか「革命」であるかは、一見すると些細な用語の違いにすぎないと思われるかもしれないが、この用語の違いは「そもそも革命とは何か」という大きな問題に直結しており、フランス革命という世界史上の大事件の定義もしくは性格付けに直接にかかわる問題なのである。

（ジョルジュ・ルフェーヴル著・柴田三千雄訳『フランス革命と農民』，柴田三千雄著『フランス革命』より引用。）

問い 「革命」をどのようなものと考えたこの貴族の動きは「反乱（もしくは反抗）」とみなされ、また「革命」をどのようなものと考えた同じ動きが「革命」とみなされることになるのかを答えなさい。絶対王政の成立による国王と貴族の関係の変化、フランス革命の際のスローガンなどを参考に考察しなさい。（400字以内）

## 解答例

「革命」を政治面から絶対王政の瓦解としてとらえると、三部会を開催せず、常備軍と官僚制を通じ強大な財政・軍事力を有した国王に対して、貴族が三部会を復活させて国王専制の抑止を図ったことが「革命」の開始と考えられる。一方「革命」を、封建的な身分制社会の解体による近代市民社会成立の過程としてとらえると、反乱となる。当時のフランスは諸身分・各社会集団が国王から特権を認められる代償に忠誠を誓う社団国家であり、身分制社会に立脚していた。この観点から当時の貴族の動きを見ると、貴族が啓蒙思想に立脚して自由・平等の理念を掲げ、伝統的・封建的な社会集団を解体して基本的人権を有する個人を創出し、国民国家の基盤となる市民社会を生み出す動きを貴族がみせたとはいえない。貴族が求めたものは、伝統的な特権の回復であり、専制的な国王との間での封建社会を前提とした権力闘争に過ぎず、「革命」ではなく「反乱」であるともいえる。

国際安全保障の歴史

次の宣言は、1943年10月に出されたものである。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

アメリカ合衆国、連合王国、ソヴィエト連邦、および中国の政府は、各国が1942年1月の連合国による宣言およびその後の諸宣言に従って、四カ国がそれぞれ交戦状態にある枢軸諸国に対する戦争を、枢軸諸国が無条件降伏を基礎として降伏するまで継続するという決意において結束し、四カ国自身及び四カ国と同盟を結ぶ人々を侵略の脅威から解放することを保証する義務を自覚し、戦争から平和への迅速で秩序ある移行を確保し、且つ、世界の人的及び経済的資源が兵器のために流用されることを最小限にしながら国際的な平和と安全を確立・維持する必要を認め、以下のように共同で宣言する：

1. 各国の敵国に対する戦争遂行のために誓約された四カ国の共同行動は、平和と安全を組織化し継続するために継続される。
2. 四カ国のうち共通の敵と交戦状態にある国はその敵国の降伏及び武装解除に関する全ての事項について共同で行動する。
3. 四カ国は、敵国に課される条件の違反に対して、必要と認める全ての措置をとる。
4. 四カ国は全ての平和愛好国の主権平等の原則に基づき、且つ、そのような大國小国の全てが参加し得る、国際的な平和と安全の維持のための一般的国際機構を、実現可能な限り早期に設置する必要性を認める。(以下略)

問い この宣言の名称を答えなさい。ところで20世紀には、この宣言で打ち出された目的を実現するための国際機構を作る試みが二度行われている。どのような国際機構が設立されたのか、またそれらはどのような問題に直面したのか、20世紀の国際関係の展開をふまえながら論じなさい。その際、次の語句を必ず用い、用いた語句に下線を引きなさい。

(400字以内) 総力戦 安全保障理事会 イタリア 冷戦 P K O \* \* P K O = 平和維持活動

解答例

モスクワ宣言。第一次世界大戦は、勢力均衡に基づく個別的安全保障による軍拡競争が重要な背景となり、また各国が総力戦で臨んだ結果、未曾有の惨禍をもたらした。そのため戦後は、平和維持機構として国際連盟が設立され、集団安全保障の原則を採用した。しかし提唱国アメリカの不参加、軍事的制裁の欠如、総会決議の全会一致など問題点も多く、日本・ドイツの脱退や、イタリアのエチオピア侵略に対する経済制裁の失敗など、第二次世界大戦を防げなかった。戦後は戦勝国を中心に国際連合が組織され、総会ではなく安全保障理事会に紛争解決の権限をもたせ、連合国の五大国を常任理事として拒否権を与え、国連軍による軍事制裁も可能としたが、冷戦下に拒否権が濫用され、総会決議に基づくP K Oが進められた。冷戦終結後には安全保障理事会が活性化する一方、湾岸戦争での多国籍軍の結成や、ソマリアにおけるP K Oの撤退など、新たな問題が出現している。(397字)

## 一橋大学 2011 2 1

問題 近代

欧州

### パリ=コミューン

問1 下線部(a)での滞在中に、久米らは、その2年足らず前にこの都市を舞台にして起こったある出来事で最後の大規模な戦闘があった墓地を訪れている。この出来事については、カール・マルクスが『フランスにおける内乱』と題した冊子で議論している。この出来事を説明しなさい。

### 解答例

普仏戦争の講和への不満から、社会主義者主導のパリ=コミューンが組織されたが、臨時政府に弾圧された。(49字)

## 一橋大学 2011 2 2

問題 近代

欧州

### 19世紀後半ヨーロッパの国際関係

下線部(b)に先だつ十数年間のうちに、ヨーロッパの国際関係は大きく変化した。この変化が準備し、この世紀の末にかけて顕著になる国際関係上の趨勢を視野に入れながら、この変化を説明しなさい。ただし、下記の語句をすべて必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(350字以内)

### 解答例

1853年のクリミア戦争で、ロシアとオーストリアが対立して、ウィーン体制以来の同盟関係が解体し、その結果ナショナリズムへの抑制力が低下した。英仏の勝利は後発諸国に工業化と国民国家形成の必要を認識させ、イタリアではサルデーニャが、ドイツではプロイセンが上からの統一を主導した。普仏戦争時にイタリアは教皇領を併合して統一をほぼ完成し、プロイセンはヴェルサイユ宮殿でドイツ帝国の建国を宣言した。1873年に大不況がおこると、列強はナショナリズムによる国民統合を強め、資本の投下先を求めて競合する帝国主義の時代となった。バルカンではロシアのパン=スラヴ主義とオーストリアのパン=ゲルマン主義が対立し、アフリカでも分割競争が激化した。ドイツのビスマルクは同盟外交を展開して国際関係の安定維持を図ったが、対立は深まった。(350字)

## 1869年の交通史上の変化

2008年アメリカ大統領選挙における民主党候補争いは、ヒラリー・クリントンとバラク・オバマによる史上まれに見る接戦となった。いずれも本選で当選すれば、アメリカ政治史上、初の女性大統領、黒人大統領の誕生となることから大きな注目を集めることとなった。しかし、歴史をさかのぼれば、そもそも、アメリカ合衆国の建国時、女性にも黒人にも、大統領に立候補する被選挙権はもちろんのこと、政治に一票を投じる参政権すら付与されていなかった。

アメリカでは、19世紀前半のジャクソン大統領の時代に男子普通選挙制が採用されたが、黒人（奴隷）や女性は蚊帳の外に置かれた。南北の激しい内戦をへて、奴隷制が解体されたのちの再建の時代になって、憲法修正15条により「合衆国市民の投票権は、人種、肌の色、または過去における労役の状態を理由にして、合衆国または州によって拒否または制限されることはない」（1870）と定められ、黒人男子への政治参加への道が開かれるかにみえた。しかし、白人による激しい抵抗にあい投票権を剥奪され、実質的な政治参加は、約百年後に成立した1965年の投票権法の成立を待たなければならなかった。

一方の女性たちの参政権運動は、1848年にセネカ・フォールズにて開催されたアメリカ女性の権利獲得のための集会から始まったといわれる。19世紀後半には女性団体が運動を展開し、1920年になってようやく憲法修正19条により「合衆国市民の投票権は、性別を理由として、合衆国またはいかなる州によっても、これを拒否または制限されてはならない」と定められ、女性の連邦政治への参加が可能となった。

問1 南北戦争後の1869年には、アメリカの政治・経済の統合に大きな役割を果たす交通網が完成する。これは何か。また、海外においても同年、ヨーロッパとアジアの距離を短縮する交通史上の大きな変化が起こるが、それは何か。

## 解答例

アメリカの太平洋岸と東部地域を結ぶ大陸横断鉄道が完成し、地中海と紅海を結ぶスエズ運河も完成した。（48字）

## 女性参政権の実現の背景

2008年アメリカ大統領選挙における民主党候補争いは、ヒラリー・クリントンとバラク・オバマによる史上まれに見る接戦となった。いずれも本選で当選すれば、アメリカ政治史上、初の女性大統領、黒人大統領の誕生となることから大きな注目を集めることとなった。しかし、歴史をさかのぼれば、そもそも、アメリカ合衆国の建国時、女性にも黒人にも、大統領に立候補する被選挙権はもちろんのこと、政治に一票を投じる参政権すら付与されていなかった。

アメリカでは、19世紀前半のジャクソン大統領の時代に男子普通選挙制が採用されたが、黒人（奴隷）や女性は蚊帳の外に置かれた。南北の激しい内戦をへて、奴隷制が解体されたのちの再建の時代になって、憲法修正15条により「合衆国市民の投票権は、人種、肌の色、または過去における労役の状態を理由にして、合衆国または州によって拒否または制限されることはない」（1870）と定められ、黒人男子への政治参加への道が開かれるかにみえた。しかし、白人による激しい抵抗にあい投票権を剥奪され、実質的な政治参加は、約百年後に成立した1965年の投票権法の成立を待たなければならなかった。

一方の女性たちの参政権運動は、1848年にセネカ・フォールズにて開催されたアメリカ女性の権利獲得のための集会から始まったといわれる。19世紀後半には女性団体が運動を展開し、1920年になってようやく憲法修正19条により「合衆国市民の投票権は、性別を理由として、合衆国またはいかなる州によっても、これを拒否または制限されてはならない」と定められ、女性の連邦政治への参加が可能となった。

問2 アメリカ合衆国以外の各国においても、この1920年前後に、女性参政権が実現した国が多い。なぜこの時期に多くの国々で女性参政権が実現したのか、その歴史的背景を説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。

クリミア戦争 総力戦 ウィルソン 国民

## 解答例

イギリスのナイチンゲールがクリミア戦争に際し、看護師の女性たちを率いて野戦病院を開設するなど、19世紀の中頃から女性の社会進出と地位向上を目指す運動が欧米諸国で活発化した。第一次世界大戦で厭戦気運が広がったロシアでは、1917年ペトログラードの女性労働者が、パンを要求するデモをおこない、これを機にロシア革命となって、女性参政権が実現した。第一次世界大戦は総力戦となり、徴兵された男性に代わって軍需工場で働くなど女性の社会進出も拡大した。各国政府は国民に多くの負担や義務を課し、日常生活も規制したため、見返りに参政権を要求する声が高まると、戦後の改革を約束することで、戦争を継続した。そのためロイド＝ジョージ内閣のイギリスや、ウィルソン政権のアメリカなどの各国で、女性参政権が実現することとなった。

七年戦争

第一次世界大戦は、植民地をめぐる帝国主義列強間の対立を要因として勃発したことから、戦火はヨーロッパの内部にとどまらず、かつてない規模での紛争をもたらした。しかし、人類がグローバルな紛争を体験したのは、このときが最初ではなかった。大航海時代がもたらした空間秩序は、しだいに緊密の度を強め、局地的な紛争がグローバルに波及する構造を創り出した。世界大戦のように総力戦体制をとまなうものではなかったが、これらの紛争では、先住民や移民など植民地に住む人々や、ヨーロッパの外にある独立諸国が、すでに「主体」として一定の役割を果たしていた。

問い 下線部に関連して、18世紀なかばに生じた「グローバルな紛争」について論じなさい。(400字以内)

解答例

重商主義政策をとった英仏両国は、17世紀末からヨーロッパの戦争に連動して現地勢力を巻き込んだ植民地戦争を開始していた。18世紀半ば、シュレジエンをめぐるプロイセンとオーストリアの対立からオーストリア継承戦争と七年戦争が起こると、北米ではジョージ王戦争とフレンチ=インディアン戦争、南インドではカーナティック戦争、北インドではプラッシーの戦いが展開した。フレンチ=インディアン戦争では、先住民の多数がフランスと提携して、イギリス及び同国の移民からなる植民地人と戦った。南インドでは英仏が現地政権を巻き込み抗争し、北インドではフランスとベンガル地方政権の連合軍がインド人傭兵のシパーヒーを主戦力とするイギリス東インド会社軍と戦った。海外での植民地戦争は最終的にイギリスの勝利に終わり、北米ではフランスの植民地を奪い、インドではベンガル地方の徴税権を得て植民地化を開始して植民地帝国の基礎を形成した。

米西戦争の原因

以下の設問に答えなさい。

1898年のアメリカ=スペイン戦争(米西戦争)の原因を述べなさい。(100字以内)

解答例

フロンティアの消滅によってアメリカ企業は海外に市場を求めるようになった。アメリカ政府は拡大モンロー主義のもとカリブ海政策をとり、アメリカ資本が進出したキューバの独立運動に介入してスペインに宣戦した。(99字)

**問題** 近代・現代

欧州・北米・中南米・南アジア

米西戦争とフィリピンの独立運動

以下の設問に答えなさい。

米西戦争がフィリピンの独立運動に与えた影響を述べなさい。(150字以内)

**解答例**

米西戦争時、アギナルドの指導するフィリピンの革命勢力は独立運動への支援を期待してアメリカに協力したが、戦争終結後アメリカはパリ条約でフィリピンの統治権を獲得した。これに対し革命勢力は再植民地化を阻止しようと、独立とフィリピン共和国の樹立を宣言したが、続くアメリカとの戦争に敗北してその植民地となった。(150字)

**問題** 近代・現代

北米・東アジア

米西戦争後の合衆国のアジア政策

以下の設問に答えなさい。

米西戦争以後、アジア太平洋の国際関係への関心を強めたアメリカの、太平洋戦争(1941年-45年)開戦にいたるまでのアジア政策を述べなさい。(150字以内)

**解答例**

中国分割競争に遅れ、門戸開放原則を主張して、市場進出を図った。ロシアを牽制し、日露戦争で日本を支援したが、その後は日本の進出に反発し、第一次世界大戦後はワシントン体制で日本を抑制した。蒋介石政権を支持し、日本が満州事変から日中戦争を経て仏印進駐強行へと向かうと、反対の姿勢を強め、日米開戦に至った。(149字)

### フランス革命の背景

18世紀後半のフランスは、それまでの絶対王政がゆきづまり、不安定な時代を迎えていたとされる。とりわけルイ16世（在位1774-92年）時代は多くの社会的矛盾や財政難が顕著となる時期であり、政府はそうした事態への対応を迫られていた。ルイ16世の即位からフランス革命勃発に至るまでの期間を取り上げ、その間、どういった問題が生じていたかを説明したうえで、政府はそれに対処するためにどのような改革を行おうとしたのか、そして、そうした改革はなぜ挫折したのかを述べなさい。（400字以内）

### 解答例

第一身分の聖職者、第二身分の貴族、第三身分の平民という身分制が維持され、少数の第一身分と第二身分が特権身分として広大な土地と重要官職を独占し、免税などの特権を得ていた。第三身分の大部分を占めた農民は領主への地代と国税の二重負担に苦しみ、富を蓄えて実力を向上させた商工業者はそれに相応しい待遇を得られないことに不満を持って旧体制を批判する啓蒙思想を支持していた。財政はイギリスとの対外戦争と宮廷の浪費によって悪化し、特にアメリカ独立革命を支援したことで破綻に瀕した。ルイ16世は重農主義者のテュルゴーを起用して穀物取引の自由化やギルドの廃止を、銀行家のネッケルを起用して特権身分への課税を試みた。しかし、特権身分はこの事態を絶対王政下で失った権力回復の好機と捉え、あらゆる改革に反対することで王権を危機に追い込もうとしたため財政改革は挫折し、特権身分が王権制限の場と期待した三部会の開催に至った。

## 中世の市民

1996年にユネスコ世界文化遺産に指定されたケルン大聖堂は、代表的なゴシック様式の教会建築である。ライン地方に位置するケルンは、古くから交通・交易の要衝であった。大聖堂は、ローマ帝政時代からキリスト教徒たちの集う聖堂があった場所に、1248年から建立が始められた。1164年に三聖王（東方三博士）の聖遺物がもたらされたことで、ヨーロッパ中から巡礼者を集めることになったのが直接の契機だが、①その背景には、領主であったケルン大司教から12世紀初頭に自治権をかちとった市民たちがいた。建立は、内陣が1322年に完成した後も続けられたが、16世紀になると市民の関心が薄れ資金難から中断してしまった。1794年から1801年までは、フランス軍の占領下で、大聖堂はもっぱら倉庫の代わりに用いられる有様だった。しかし、②大聖堂建立への情熱は、まさにこの時期から再びよみがえった。1842年に再開された建立資金の半分はプロイセン政府が、残り半分は市民たちが負担した。1880年、ついに高さ157メートルの双塔を擁する大聖堂が完成した。南塔に据えられた「皇帝の鐘」は、フランス軍から奪った大砲を溶かして作られた。とはいえ、この「皇帝の鐘」は第一次世界大戦に際して武器製造のため溶かされてしまい、また大聖堂は第二次世界大戦に際して14回もの爆撃を被った。修復工事を終えた現在も、大聖堂は、深刻な酸性雨被害に加えて、周辺の高層ビル開発計画にさらされている。

問1 下線①について、この時代の市民をめぐる一般的状況を説明しなさい。（250字以内）

## 解答例

市民は独自の都市法を持ち領主裁判権から自立して「都市の空気は自由にする」と称され、市民間には共同体意識が存在した。しかし、当初市政を管理する市参事会の運営は、相互扶助と市場独占のため商人ギルドを結成した大商人などの特権市民に独占されていた。これに対し手工業の親方も同業者ごとに同職ギルドを結成し、ツunft闘争を行って市政参加権を獲得していった。しかし同職ギルドの正規のギルド員は親方のみであり、職人や徒弟は徒弟制度の身分秩序で規制されていたため、都市の自由は一部の特権層の自由であった。

## ナショナリズムとロマン主義

1996年にユネスコ世界文化遺産に指定されたケルン大聖堂は、代表的なゴシック様式の教会建築である。ライン地方に位置するケルンは、古くから交通・交易の要衝であった。大聖堂は、ローマ帝政時代からキリスト教徒たちの集う聖堂があった場所に、1248年から建立が始められた。1164年に三聖王（東方三博士）の聖遺物がもたらされたことで、ヨーロッパ中から巡礼者を集めることになったのが直接の契機だが、①その背景には、領主であったケルン大司教から12世紀初頭に自治権をかちとった市民たちがいた。建立は、内陣が1322年に完成した後も続けられたが、16世紀になると市民の関心が薄れ資金難から中断してしまった。1794年から1801年までは、フランス軍の占領下で、大聖堂はもっぱら倉庫の代わりに用いられる有様だった。しかし、②大聖堂建立への情熱は、まさにこの時期から再びよみがえった。1842年に再開された建立資金の半分はプロイセン政府が、残り半分は市民たちが負担した。1880年、ついに高さ157メートルの双塔を擁する大聖堂が完成した。南塔に据えられた「皇帝の鐘」は、フランス軍から奪った大砲を溶かして作られた。とはいえ、この「皇帝の鐘」は第一次世界大戦に際して武器鑄造のため溶かされてしまい、また大聖堂は第二次世界大戦に際して14回もの爆撃を被った。修復工事を終えた現在も、大聖堂は、深刻な酸性雨被害に加えて、周辺の高層ビル開発計画にさらされている。

問2 下線②について、理由として考えられる政治的・文化的状況を説明しなさい。（150字以内）

## 解答例

ナポレオン支配に対する反発は民族意識の高揚をもたらし、ドイツの文化的伝統が称揚された。中世を賛美するロマン主義の流行も、ゴシック様式の大聖堂建立の情熱を高めた。ウィーン議定書によってこの地を獲得したプロイセン政府は、住民の統合を進めるためにも、建設費用の負担に応じた。

### 核兵器の歴史的役割

第二次世界大戦後に「冷たい戦争（冷戦）」という米ソ両体制の対立する時代が形成された背景には、大国による核開発、核保有が大きな役割を果たしている。第二次世界大戦後の冷戦勃発から、1989年のベルリンの壁の崩壊に至るまでの時期を対象に、各国の核保有、各国間の核軍縮の経緯を押さえた上で、この冷戦期の国際政治に核兵器が果たした歴史的役割について述べなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。

(400字以内)

キューバ危機      中距離核兵器全廃条約  
封じ込め政策      ワルシャワ条約機構

### 解答例

核兵器の単独保有を背景としたアメリカの封じ込め政策で冷戦が始まった。しかしソ連も核兵器の開発に成功して対抗し、事態は核兵器を軸としたNATOとワルシャワ条約機構の二大軍事機構の対峙に至った。ソ連はICBMの開発に先行し、心理的優位を背景に平和共存外交に転じたが、キューバのミサイル基地建設をめぐってキューバ危機が勃発した。この核戦争の危機を回避した米ソ両国は部分的核実験停止条約を締結して核管理体制を構築しようとしたが、独自の核開発を進める中仏はこれに反対し、国際政治は多極化の情勢となった。70年代前半は米ソ両国が核兵器制限条約に調印してデタントを演出したが、80年代前半はアメリカがSDI計画で軍拡に転じ、米ソ対立が激化した。軍拡で経済が悪化したソ連は80年代後半に新思考外交で核軍縮を呼びかけ、同様に財政が悪化したアメリカもこれに応じて中距離核兵器全廃条約が調印されると、冷戦は終結に向かった。(392字)

近世国家の政治・経済的特徴

次の文章は、1725年1月に亡くなったロシアの皇帝ピョートル1世の業績を称えた詩である。これを読んで、下の設問に答えなさい。

彼は亡くなった。だが彼は我々を貧しく不平等なまま残さなかった。彼のもたらした巨大な力と栄誉は我々とともにある。彼が我がロシアを形づくったように、ロシアは存続するだろう。彼が良き人びとにロシアを愛すべきものにしたように、ロシアは愛されるであろう。彼が敵にロシアを恐れるものにしたように、ロシアは恐れられるだろう。彼は世界中にロシアの名を高らしめ、そしてロシアの栄光は終わることはないだろう。彼は我々に精神の、民政の、そして軍事の栄光を残した。たとえ彼の亡骸が我々に残されたとしても、彼の精神は生きつづける。

ピョートルの改革は「西欧化」と特徴づけられるが、当時のヨーロッパの政治と経済の基本的動向について述べなさい。(100字以内)

解答例

戦争が恒常化したことを背景に、国内を一元的に支配する主権国家の形成が進み、絶対王政の国王統治体制も生まれた。貿易による利益獲得を目指す重商主義政策が採用され、産業保護政策によって商工業が発達した。(98字)

### ピョートル1世の西欧化政策

次の文章は、1725年1月に亡くなったロシアの皇帝ピョートル1世の業績を称えた詩である。これを読んで、下の設問に答えなさい。

彼は亡くなった。だが彼は我々を貧しく不平等なまま残さなかった。彼のもたらした巨大な力と栄誉は我々とともにある。彼が我がロシアを形づくったように、ロシアは存続するだろう。彼が良き人びとにロシアを愛すべきものにしたように、ロシアは愛されるであろう。彼が敵にロシアを恐れるものにしたように、ロシアは恐れられるだろう。彼は世界中にロシアの名を高らしめ、そしてロシアの栄光は終わることはないだろう。彼は我々に精神の、民政の、そして軍事の栄光を残した。たとえ彼の亡骸が我々に残されたとしても、彼の精神は生きつづける。

文中下線部にある「精神の、民政の、そして軍事の改革」とはどのような改革を指すのか。できるだけ具体的に述べなさい。(300字以内)

### 解答例

西欧諸国を視察し、それを模範として改革を進めた。精神面ではギリシア正教会に対する国家支配を強化するとともに、髭税などで西欧の風習や文化を支配層に強制した。民政面では全国的な徴税制度を整え、徴税機構を中心に行政組織を整備する一方で、国内産業の育成を図り、農奴の工場使用を認めた。軍事面では、西欧の軍事技術の導入を進め、常備軍を拡大し、貴族を将校として、農奴を兵士として軍隊に動員する体制を整えた。軍事力を背景にシベリア経営をすすめ、北方戦争でスウェーデンに勝利してバルト海の覇権を握り、重商主義に基づく交易の利益の拡大を図った。これによりロシアを東方の大国としてヨーロッパの主権国家体制に参入させた。

### 共和党の主張

次の文章は、明治四年（1871年）に日本をたち、世界各国の視察・調査をおこなった使節団がアメリカ合衆国の首都ワシントンで見聞したことを記したものである。これを読んで、下の設問に答えなさい。

売奴ノ存廢ハ、南部ノ綿花耕作ニ関係シ、綿花ノ利益ハ、米英両大国、数千万ノ生活ニ緊切スレハ、西洋人ノ利ニ熱中スル、永ク失フナカラント、売奴ノ束縛ヲ堅鎖シ、黒奴ハ元來奴隸ノ役ニ供スル、一種ノ賤人ナレハ、従来ノ交際ニテ十分ナリト謂ニ至レリ、是ヲ以テ廢奴ノ論党ハ、益其志ヲ奨励シ、終ニ一千八百六十年、大統領選挙ノトキニ至リ、其推服スル所ノ林根氏ヲ挙ルヲ得タリ、…（中略）…然トモ南部終ニ敗レ、六十五年ニ協議シテ、憲法ヲ増加スルニ至リ、黒奴始メテ人間ニ出タレトモ、交際モナク、丁字モナキ愚民ナレハ、…（中略）…但中ニハ早く自主セル黒人モアリ、現ニ下院ニ撰挙サレタル人傑モアリ、……

（久米邦武編『特命全権大使米欧回覧実記』より）

上記の文章にある廢奴ノ論党の正式名称は何かをまず明示したうえで、その政党の目指した政治は、それまでの他の政党と比べてどのような特徴を持っていたのか、述べなさい。（100字以内）

### 解答例

廢奴ノ論党は共和党。共和党は奴隸制反対を主張する一方、北部の商工業者を支持基盤としてその利益を代表し、イギリス製工業製品阻止のための保護関税貿易と、それを実行するための連邦政府の権限強化を主張した。

## アメリカ大陸の奴隷制

次の文章は、明治四年（1871年）に日本をたち、世界各国の視察・調査をおこなった使節団がアメリカ合衆国の首都ワシントンで見聞したことを記したものである。これを読んで、下の設問に答えなさい。

売奴ノ存廢ハ、南部ノ綿花耕作ニ関係シ、綿花ノ利益ハ、米英両大国、数千万ノ生活ニ緊切スレハ、西洋人ノ利ニ熱中スル、永ク失フナカラント、売奴ノ束縛ヲ堅鎖シ、黒奴ハ元來奴隸ノ役ニ供スル、一種ノ賤人ナレハ、從來ノ交際ニテ十分ナリト謂ニ至レリ、是ヲ以テ廢奴ノ論黨ハ、益其志ヲ奨励シ、終ニ一千八百六十年、大統領選挙ノトキニ至リ、其推服スル所ノ林根氏ヲ挙ルヲ得タリ、…（中略）…然トモ南部終ニ敗レ、六十五年ニ協議シテ、憲法ヲ増加スルニ至リ、黒奴始メテ人間ニ出タレトモ、交際モナク、丁字モナキ愚民ナレハ、…（中略）…但中ニハ早く自主セル黒人モアリ、現ニ下院ニ撰挙サレタル人傑モアリ、……

（久米邦武編『特命全権大使米欧回覧実記』より）

こうした奴隷制度や奴隷貿易の廃止は、19世紀前半にイギリス、フランスをはじめとして世界的な規模で進行した。近代世界の成立とともに本格化した奴隷貿易は、18世紀にはいと激増し、ヨーロッパの植民地経営には欠かせないものとなったが、なぜこの時期にそのような奴隷に依存した体制が崩れていったのか。奴隷貿易の盛衰にある政治的・経済的な要因と、国際的な要因を、カリブ海地域やラテン・アメリカ世界を事例として述べなさい。その際、次の語句を用い、使用した語句には下線を引いて明示すること。（300字以内）

砂糖 トウサン＝ルーヴェルチュール クリオーリョ インディオ

## 解答例

18世紀の生活革命を背景にヨーロッパで砂糖需要が増大し、カリブ地域を中心にサトウキビプランテーションが拡大すると、先住民のインディオがスペインの圧政と伝染病によって激減していたため、労働力として黒人奴隷が導入された。しかし、自然権思想を背景にフランス革命で奴隷制廃止が決議されると、その影響を受けたフランスの植民地ハイチは、トウサン＝ルーヴェルチュールを中心に史上最初の黒人共和国として独立した。イギリス領西インドでも砂糖プランターに対抗した産業資本家の支持で奴隷制が廃止されると、イギリスの支援で独立を達成したラテンアメリカの白人支配層クリオーリョも、イギリスの圧力で奴隷制廃止を受容していった。

## 一橋大学 2002 2

問題 近代

欧州

### フランス二月革命

1848年は、フランスやオーストリア、ドイツにおいて革命が勃発し、イギリスでもチャーチスト運動が高揚するなど、ヨーロッパ各国が大きな変動に見舞われた年であった。フランス二月革命を例に取り、こうした変革を求める運動を生み出した社会的・政治的原因を説明したうえで、革命の成果と限界を論じなさい。(400字以内)

### 解答例

七月王政は大資本家が優位で財産制限選挙に立脚していた。しかし産業革命の進展により中小資本家と労働者が台頭すると、中小の資本家を穏健共和派が、労働者を社会主義者が代弁し、選挙権を要求する改革宴会の運動が1846年からの不況を背景に広がった。全国改革宴会が禁止されると二月革命となり、穏健共和派と社会主義者による臨時政府が共和政を宣言し、革命の成果として男子普通選挙権を確立した。失業者救済のため国立作業場も設置されたが、4月の総選挙では農民層の反発から社会主義者が惨敗して臨時政府から追放され、国立作業場も閉鎖されて労働者の六月暴動も鎮圧されたため、社会改革には限界が生じた。保守化した資本家と労働者の対立は、12月の大統領選挙で農民層の支持を得て当選したルイ＝ナポレオンが国民各層の対立を利用して利害の調停者としてふるまい、議会を無視して独裁体制を確立することを可能とした。☒☒

## 一橋大学 2001 2

問題 近世

欧州

### 絶対主義

17世紀から18世紀におけるヨーロッパは絶対主義あるいは絶対王政の時代と呼ばれる。とりわけルイ14世が統治したフランスは典型的な絶対主義国家とされているが、このような政治体制がどの程度「絶対的」であったのかに注意しながら、その特徴を述べなさい。(400字以内)

### 解答例

戦争の恒常化と大規模化を背景に、国家は常備軍を組織し、軍事費調達のため全国的な徴税制度や官僚制度を整備して国内の一元的支配を進めた。この過程で教会を国家の統制下におき、封建領主の不輸不入権や都市の自治権を制限するなど、自立的だった種々の社会集団の権限を奪っていった。そのため貴族も宮廷の廷臣や常備軍将校として国家に寄生する存在となった。また財政を確立するため国内産業の育成と海外植民地の獲得をめざす重商主義政策を行い、市場の統一・拡大を望む新興市民も当初この体制を支持した。国王は議会を開催せず唯一の立法者として振るまい、その権力が神から授けられた絶対的なものだとする王権神授説でこれを正当化し、個人を臣民として王権の直接掌握下におこうとしたが、実際には従来の身分制度や社会集団は解体されず、貴族の農民に対する領主権、都市におけるギルド特権などが維持されたため困難であり、その絶対性には限界があった。(400字)

### 合衆国のヴェトナム戦争介入の歴史

次の文章は、アメリカ合衆国のジミー・カーター大統領が1977年5月22日におこなった演説の一部です。これを読んで、下記の問1、問2に答えなさい。

わが国の未来を揺るぎないことを確信しているゆえに、現在われわれは共産主義に対して過度の恐怖を抱いていない。かつてはその恐れのために、独裁者であっても、われわれと同じ恐れを抱いている者とは手を結ばざるをえなかったのである。あまりにも長い年月、われわれはみずから敵対者の不完全で誤った原則や戦術を取り入れようと努め、ときには彼らの価値観を受け入れて自分自身の価値観を放棄した。われわれは火と戦うのに火をもってし、火は水をもって消す方が良くことに気がつかなかった。

このような方策は失敗に終わった。知性と道義心に欠けたその方策がもたらした最悪のものがヴェトナム戦争であった。しかし失敗を通じてわれわれは今や自分自身の原則と価値観に立ち帰る道を見いだし、失った自分を取り戻したのである。(有賀貞訳)

問 この演説の背景となったアメリカ合衆国のヴェトナム戦争介入の歴史(1954～75年)について、その原因と結果を具体的に述べなさい。(200字以内)

### 解答例

インドシナ戦争でジュネーブ休戦協定が結ばれ、フランスの撤退と2年後の南北統一選挙が約されたが、アメリカは調印を拒否し、ダレス巻き返し外交の一環として、共産主義拡大阻止を唱えるドミノ理論に基づき、ゴ・ディン・ディエム政権を支持して介入した。しかし1973年ニクソン政権はパリ和平協定で撤退した。その後南ヴェトナム解放民族戦線とヴェトナム民主共和国の攻勢でサイゴンが陥落し、ヴェトナム共和国は崩壊した。(197字)

ヴェトナム戦争の合衆国への影響

次の文章は、アメリカ合衆国のジミー・カーター大統領が1977年5月22日におこなった演説の一部です。これを読んで、下記の問1、問2に答えなさい。

わが国の未来を揺るぎないことを確信しているゆえに、現在われわれは共産主義に対して過度の恐怖を抱いていない。かつてはその恐れのために、独裁者であっても、われわれと同じ恐れを抱いている者とは手を結ばざるをえなかったのである。あまりにも長い年月、われわれはみずから敵対者の不完全で誤った原則や戦術を取り入れようと努め、ときには彼らの価値観を受け入れて自分自身の価値観を放棄した。われわれは火と戦うのに火をもってし、火は水をもって消す方が良いことに気がつかなかった。

このような方策は失敗に終わった。知性と道義心に欠けたその方策がもたらした最悪のものがヴェトナム戦争であった。しかし失敗を通じてわれわれは今や自分自身の原則と価値観に立ち帰る道を見いだし、失った自分を取り戻したのである。(有賀貞訳)

問 ヴェトナム戦争介入がアメリカ合衆国の社会と対外関係に与えた影響を具体的に述べなさい。(200字以内)

解答例

ヴェトナム戦争の賛否をめぐる国論は2分し、国民間の対立は深刻化した。反戦運動はロックやヒッピームーブメントなどカウンターカルチャーと結合し、黒人解放運動とも提携した。対外的には国際的なヴェトナム戦争批判に加え、国際収支の悪化によるドル危機で国際通貨制度の基本であった金ドル本位制が崩壊したことで、アメリカの威信は低下した。そのため外交による威信回復を図って中国訪中などデタントを演出していった。

(197字)

## ビスマルク時代のドイツ

次の文章は、ドイツの法学者オットー・フォン・ギールケが、1889年4月5日に行った講演の一部である。これを読んで、下の問に答えなさい。

我々に必要な私法は、個人の不可侵の領域を十分に尊重するけれどもそこに共同体の思想が息づいているような私法です。端的に言えば、公法には自然法的自由の気風が息吹かねばならないし、私法には社会主義の油を一滴しみ通らせねばならないのです。

問 この講演にみられるようなドイツ民法典への社会的要請について、フランス民法典と比較しつつ、1870年から1900年までの政治的・社会経済的状況を説明しなさい。

## 解答例

フランス民法典は個人の自然権の確立を目的とするもので、特に個人の財産権を確定した。それは個人の自由競争を前提とする資本主義社会に適合するものでもあった。ドイツの民法典は共同体としての国家を個人の上位に置く一方、社会保険制度など国家による個人の生活保障も規定して、資本主義を批判する社会主義の主張の一部を取り込むものであった。これは政治的にはドイツ帝国の統一が国家による上からの統一によって行われ、政治制度が外見上の立憲制にとどまったこと。社会経済的には統一後のドイツが急速な工業化を経験し、労働者が急増して社会主義運動が成長したことが背景にある。ドイツ帝国の初代宰相ビスマルクは社会主義者鎮圧法によって社会主義運動を弾圧する一方、社会保険制度整備など社会政策を行って労働者を国家に取り込もうとした。さらにヴィルヘルム2世は社会主義者鎮圧法を廃止して社会民主党を公認するにいたるのである。(393字)

## フランス第三共和政

次の文章は、フランスの評論家ダニエル・アレヴィ（1872-1962）による。ここで語られていることをふまえて、1870年から19世紀末に至るまでのフランスの政治状況を、以下の用語を使って説明せよ。なお、用語を最初に使った箇所には下線を付すこと。（400字以内）

「1871年6月—フランス人は何を感じていたのだろうか。彼らの国は国境からサン＝ドニやヴァンセンヌに至るまでドイツ人に占領されていて、傷つけられ辱められた首都には地と煙の臭いがまだ漂っていた。また、リヨン、マルセイユ、トゥールーズ、ボルドー、リモージュ、ペリグーは依然として武装しており、おそらくは新たな一触即発の可能性を抱えていたのである。悲しみ、沈黙、茫然自失の状態がいたる所で支配していた。力によって獲得されたこの秩序を、いかにして定着させ、安定したものにするか。すべてが不確定で移ろいやすく、それが人々の恐怖を生みだしていた。そして不安と徒労感には悔恨の情が混じり合っていた。」

ナポレオン3世    ティエール    アルザス・ロレーヌ割譲  
労働運動    ドレフュス事件

## 解答例

普仏戦争の敗北によりナポレオン3世が退位して第三共和政が成立し、ブルジョワ共和派のティエールが組織した臨時政府はアルザス・ロレーヌ割譲をドイツに承認した。これに反対したパリ民衆は社会主義者の下にパリ＝コミューンを組織したが、政府軍に弾圧された。その後フランス革命の継承を自任する第三共和国憲法が制定され、学校を通じた国民教育による国民統合が図られたが、共和派と王党派などの対立と小党分立で政治は安定せず、1873年不況の影響で80年代を通じて不況が続いたことで、議会政治を否定するアナールコ＝サンディカリズムが労働運動に影響力を拡大した。反共和派は、国民の間に存在する対独復讐感情を利用し、ブーランジェ事件やドレフュス事件を相次いで起こして共和政打倒を図った。しかし、ドレフュス事件に際して急進共和派が結集して政界の主導権を握り、ロシアへの資本輸出などで経済も好転したため、共和政は安定にむかった。（395字）

## ヴァイマル憲法

次の文章は、ドイツの作家ハインリヒ・マンが、1923年8月11日に行った講演の一部です。これを読んで、下記の問いに答えなさい。

私たちは祝うべきであります。しかし時は危機的です。私たちは憲法を祝うべきであります。ところが、あれから憲法がどうなってしまったのか、私たちは知らないのです。そして今後、憲法がどうなるのだろうか、ということも分からないのです。1919年という年は、遠い昔になりました。(中略) 憲法の精神は、そうこうするうちに誤認され、否認され、歪曲され、憲法からほとんど追い出されてしまいました。戦争に熱狂するナショナリズムが、かつてと同じように、またもや荒れ狂っており、もうすでに、ふたたび権力の座に達しようとしています。(中略) 反動の理由は何でしょうか。皆さん全員が第一の理由としてお挙げになるであろうものを、私も挙げようと思います。隣人たちによる、外的な圧迫です。(中略) 加えて、第二の主な理由として、窮乏があります。(中略) この三日間の国会をその場で体験した者は、幽霊屋敷にいたのです。こんなものは、かつて一度も見られたためしがありません。(中略) 首相が登場すると「生ける屍!」「破産者!」という怒号が投げつけられます。(中略) 首相が演説を始めるとき、ドルはさらに高値つけていました。演説を終えるころ、ドルはさらに高くなっています。

ここで言われている「憲法」について、その基本的特徴をいくつか述べなさい。(100字以内)

## 解答例

ヴァイマル憲法は、主権在民・男女平等普通選挙・労働者の団結権の承認・世界初の社会権の規定など、民主的な憲法であった。しかし、その一方で、直接選挙によって選ばれる大統領に非常大権を行使する権限を与えた。(100字)

## ヴァイマル共和国

次の文章は、ドイツの作家ハインリヒ・マンが、1923年8月11日に行った講演の一部です。これを読んで、下記の問いに答えなさい。

私たちは祝うべきであります。しかし時は危機的です。私たちは憲法を祝うべきであります。ところが、あれから憲法がどうなってしまったのか、私たちは知らないのです。そして今後、憲法がどうなるのだろうか、ということも分からないのです。1919年という年は、遠い昔になりました。(中略) 憲法の本質は、そうこうするうちに誤認され、否認され、歪曲され、憲法からほとんど追い出されてしまいました。戦争に熱狂するナショナリズムが、かつてと同じように、またもや荒れ狂っており、もうすでに、ふたたび権力の座に達しようとしています。(中略) 反動の理由は何でしょうか。皆さん全員が第一の理由としてお挙げになるであろうものを、私も挙げようと思います。隣人たちによる、外的な圧迫です。(中略) 加えて、第二の主な理由として、窮乏があります。(中略) この三日間の国会をその場で体験した者は、幽霊屋敷にいたのです。こんなものは、かつて一度も見られたためしがありません。(中略) 首相が登場すると「生ける屍!」「破産者!」という怒号が投げつけられます。(中略) 首相が演説を始めるとき、ドルはさらに高値つけていました。演説を終えるころ、ドルはさらに高くなっています。

1919年から1923年までのドイツの政治的・経済的状况について、この文章で触れられている点を中心に、具体的に説明しなさい。(300字以内)

## 解答例

1919年社会民主党のエーベルトを大統領としてヴァイマル共和国が成立した。しかし経済面では敗戦後の経済混乱とともに、ヴェルサイユ条約で課された賠償義務が負担となり、とくに1923年には賠償支払い遅延を理由とするフランス・ベルギーのルール占領に消極的抵抗で対抗したため生産が低下し、激しいインフレが進んだ。政治的には小党分立の不安定な状態で、外圧による経済悪化にともない左右勢力が台頭し、なかでも敗戦後に成立したナチスがミュンヘン一揆を起こした。このため1923年には政治・経済両面に渡り混乱は頂点に達したが、シュトレゼマン内閣のもとミュンヘン一揆は鎮圧され、レンテンマルク発行によってインフレも収束に向かった。

(300字)

冷戦期の世界

次の史料を読んで下の問いに答えなさい。

国の内外を問わず、われわれは決して警戒心を緩めてはなりません。しかし私は、このように言うとき、反共の名の下に行われるいかなる行き過ぎや不正にも賛成するものではありません。不幸にして、われわれの中には、不安やヒステリーや恐怖から、利己的な利益を得ようとして、アメリカ国民を前に争点を混乱させ、覆い隠し、あいまいにしようと望む人々もいるのです。これら、混乱から利益を上げようとする人々は、今や対外政策の分野において、また国内問題についても活動しております。（アンドレー・スティーヴンソン民主党大統領候補の選挙演説、1952年9月）

問 この演説が行われた世界史的背景を、アメリカ合衆国の国際環境・対外関係に即して、いくつか事例をあげて説明しなさい。（400字）

解答例

1947年のトルーマン＝ドクトリンから本格化した冷戦のなか、ソ連がベルリン封鎖を行うと、封鎖中に東側がコメコン、西側がNATOを結成し、封鎖解除後にはドイツに東西両国家が生まれた。またソ連の原爆保有によって合衆国による核兵器独占が破れた。こうした状況下、中国の国共内戦に共産党が勝利して、北京を首都に中華人民共和国が成立し、合衆国が支持する中華民国政府は台湾に逃れ、合衆国の封じ込め政策も破綻した。また、北緯38度線を挟んで成立した朝鮮半島の南北両国家の間で、北側の侵攻から朝鮮戦争が勃発すると、南側に合衆国軍主体の国連軍が、北側に中華人民共和国の義勇軍が参戦し、戦線は膠着した。この間、合衆国はANZUSや日米安全保障条約などを結んで反共軍事同盟を強化する一方、ヴェトナム民主共和国とフランス間のインドシナ戦争で、しだいにフランスの劣勢が明らかになると、反共産主義の立場でフランスに対する援助を拡大した。（400字）

第二次産業革命

「すでに20世紀の技術の発展は、われわれが今日第二あるいはむしろ第三の産業革命に直面していることを示している。しかしこんないい方をすると、この革命が新しい種類のものであり、計画的な科学研究が個々の職人的な発明の才にますます取って代わりつつある革命だという事実が、あいまいになるかも知れない。そのうえ、あの産業革命は、おもに動力の産出と伝達に関与したもので人間をつらい筋肉労働から原理上解放するものだったが、20世紀の革命は、おもに労働者の熟練を機械ないしは電子装置でおきかえることにあり、これは人間を単調な事務的ないし機械番人的な仕事の重荷から解放すべきものである。」(J. D. バナール『歴史における科学』より)

引用文のなかでバナールは20世紀の「産業革命」を「むしろ第三の」それであると評価しているが、それでは第二の「産業革命」とはなんだろうか。いくつかの産業をとりあげてその特徴を具体的に説明するとともに、「第三の産業革命」との関連を明らかにせよ。解答にあたっては以下の事項に必ず言及し、下線を引いて明示すること。(400字以内)

内燃機関 ファラデー 人造繊維 電話機

解答例

第二の「産業革命」は、19世紀後半から展開したもので動力源には石炭に代わって石油や電力が用いられ、軽工業にかわって重化学工業が中心となり、科学研究の成果が技術開発に転用された。ファラデーによる電磁気の研究は、ベルの電話機の発明やマルコーニの無線電信の発明を生んだ。マイヤーとヘルムホルツのエネルギー保存の法則の発見は、ダイムラーによる内燃機関と自動車の発明に応用された。リービヒの有機化学の研究は、化学肥料や人造繊維の発明につながった。しかし重化学工業中心であったことは、生産設備の巨大化を必要とし、大企業による独占を進展させた。そこでは個人の創意よりも組織の優位が重視され、仕事は単調な事務と機械番人的なものとなった。それに対して現在進行中の第三の「産業革命」は、情報と通信を中心とするものであり、個人の創意や能力が重要となることで、現在の社会の単調な仕事から人間を解放すべきものとなっている。(397字)

ネーデルラントの歴史的経過

歴史的に「ネーデルラント」と呼ばれた地域は、14世紀から19世紀前半にかけて、どのような歴史的経緯をたどってきたであろうか。「ネーデルラント」を構成する各地域の宗教的特色や政治権力の移り変わりに留意しながら、この点について説明しなさい。その際、下記の語をすべて文中に用い、それらを最初に使用したところでは下線を引きなさい。(400字)

七月革命 百年戦争 ウィーン会議 ユトレヒト同盟 ウェストファリア条約

解答例

14世紀の前半、毛織物工業地域であったネーデルラント南部のフランドル地方は、英仏両王家の争奪地となり、百年戦争の原因となった。百年戦争後はフランス王家の分家のブルゴーニュ家が支配したが、ブルゴーニュ公女と神聖ローマ皇帝マクシミリアン1世の結婚によってハプスブルク家に帰属した。その後、スペインハプスブルク家のフェリペ2世がネーデルラントを継承したが、その旧教政策と重税政策にネーデルラントは独立反乱を起こした。しかし、スペインの懐柔政策によってカトリック中心の南部10州が独立した。残った新教中心の北部7州はユトレヒト同盟を結んで独立戦争を継続し、1648年のウェストファリア条約によって独立を正式に承認された。18世紀初めのスペイン継承戦争の結果、南部はオーストリア領となったが、ウィーン会議でオランダ立憲王国に併合された。しかし、1830年のフランス七月革命の影響で、ベルギー王国として独立した。

アメリカ合衆国の黒人問題

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

…しかし、100年後のこんにち、黒人はいまだに自由ではない。100年後のこんにち、黒人は人種隔離という手錠と人種差別という鉄鎖に痛ましくも繋がれている。100年後のこんにち、黒人は広大な物質的繁栄のただ中に浮かぶ貧困という孤島で暮らしている。100年後のこんにち、黒人はいまだにアメリカ社会の片隅で暗澹とした日々を送っており、自分の国にいるのに流浪の身のように感じている。

我々は、今日、この恥ずべき状況を白日の下にさらけ出すためにここに集まった。ある意味で我々は、小切手を換金するためにこの首都に来たのだ。わが共和国の設計者たちが、憲法と独立宣言を格調高く書いた時点で、彼らは、全てのアメリカ人に振り出される約束手形にサインしたのだ。この手形は、全ての人に、そう、白人だけでなく黒人にも、生命、自由、幸福の追求という譲渡できない権利を保障することを約束したものである。… (Martin L. King, Jr., “I have a dream” Speech より)

問 アメリカ合衆国の歴史の中で黒人はどのような立場にあったか、この演説内容を史実に即して説明しなさい (400字)

解答例

プランテーションの奴隷労働力として導入された黒人は、独立宣言や憲法でも解放されず、19世紀前半の南部では黒人奴隷制度は綿花栽培の普及にともなって拡大強化された。南北戦争中に奴隷解放が宣言され、戦後に憲法で奴隷解放が明文化され、市民権と選挙権も付与されたが、多くの黒人は、シェアクロッパー制の下で小作人として白人地主に経済的隷従を余儀なくされた。しかも南部では各種の黒人取締法によって黒人の参政権は奪われ、教育や公共施設などでも法的に隔離された。KKKなどの白人至上主義団体による差別と迫害も続いた。第一次世界大戦後には南部の農業不況で黒人の一部が北部へと移り、ジャズ音楽やスポーツで活躍する黒人も出現したが、多くは都市のゲットーやスラムに暮らす最底辺の労働者として貧困と差別に苦しんだ。1960年代に公民権運動が高揚し、この演説後の1964年には公民権法の制定で法的な差別は撤廃されたが、未だ問題は残っている。(400字)

## 一橋大学 1992 2

問題 現代

欧州

### 東欧諸国の独立

東欧諸国が大国の政治支配から脱して真の独立国家を実現するには、長い時間を必要とした。東欧諸国のうちポーランドまたはチェコスロヴァキアを選び、その国が19世紀以降、形式的ではあれ、国家的独立を達成してからワルシャワ条約機構解体にいたるまでの歴史過程を、国家再生時とのかかわりで大きく三期に区分して述べよ。(400字以内)

### 解答例

第一期、初代マサリク大統領の指導の下、オーストリア＝ハンガリー帝国の解体で成立したチェコスロヴァキアは議会政治が確立し、工業も発展した。第二期、ドイツのヒトラー政権はチェコスロヴァキアに対し、ズデーテン地方の割譲を要求した。二代大統領ベネシュは、フランス、ソ連と相互援助条約を結んで対抗したが、1938年、ミュンヘン会談での英独伊仏四国の合意のもとチェコはズデーテン地方の割譲をドイツに余儀なくされ、翌年にはベーメン・メーレンはドイツに併合され、スロヴァキアはドイツの保護国となった。第三期、第二次大戦後チェコスロヴァキアは、ソ連の勢力圏となりながらも議会政治を維持したが、1948年のクーデタで共産主義独裁体制となった。1968年にはプラハの春で共産党自ら民主化を試みたが、ワルシャワ条約軍の介入によって弾圧された。しかしソ連のペレストロイカの影響で民主化運動が高まり、1989年共産主義政権が打倒された。

## 一橋大学 1991 2

問題 近代・現代

欧州

### 独仏関係の変遷

ヨーロッパ共同体(EC)が発展する上で、第二次世界大戦後にフランスとドイツ連邦共和国がそれまでの敵対関係を克服していったことが決定的影響を及ぼした。両国の関係が対立から協調へと変化していった過程とその原因を、次の用語をすべて使って、説明せよ。(400字以内)

アルザス・ロレーヌ      ルール占領      ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体 (ECSC)

### 解答例

1871年普仏戦争に敗北したフランスがドイツにアルザス・ロレーヌの割譲を強られるなど両国関係は悪化し、さらに第一次大戦でその極に達していた。戦後フランスは対独報復を強調し、ルール占領を行うなど両国関係は緊張したが、賠償問題の妥協で国際協調に転じ、ヨーロッパの安全保障を定めたロカルノ条約が締結された。しかしナチスの政権獲得で両国関係は再び悪化し、第二次大戦でフランスはドイツに占領された。戦後に、独仏の抗争が両国国境に集中する鉄と石炭資源を背景としていたことから、資源の共同管理による紛争要因の排除を目的に仏外相シューマンの提案によりヨーロッパ石炭鉄鋼共同体が結成された。その成功により、米ソ超大国に対抗する欧州の結束という目的も加えてヨーロッパ経済共同体とヨーロッパ原子力共同体が結成され、それが1967年にヨーロッパ共同体に統合されて独仏協調による欧州統合がすすむことになった。☒☒ (390字)

## 一橋大学 1990 2

問題 近世

欧州・東アジア・中南米・アフリカ

### 砂糖・茶と世界の一体化

17世紀から19世紀のヨーロッパにおいて砂糖と茶の消費習慣が広がったこととヨーロッパ諸国の対外関係はどのように結びついてきたか、史実にそくして具体的に述べよ。(400字以内)

#### 解答例

英仏両国は、インド産綿布を代価にアフリカの黒人奴隷を西インド諸島に運び、砂糖を獲得する大西洋三角貿易を成立させ、重商主義政策でオランダ商人をこの貿易から排除し、オランダの貿易覇権に打撃を与えた。一方で英仏両国は綿布獲得をめぐるインドで現地勢力を巻き込んだ植民地戦争を展開した。アフリカ向け綿布需要と奴隷貿易による資本の蓄積はイギリス産業革命の原動力となったが、労働者にも飲茶の習慣が広がり、茶がイギリスの国民飲料となると、中国からの茶の輸入が増加し、片貿易となって銀が流出した。そこでイギリスはインドからアヘンを中国に輸出し、インドにイギリス製綿布を輸出して銀の回収を図る英印中三角貿易を開始した。このためインドの綿工業は壊滅してインドはイギリスの市場となった。一方銀の流出に悩む清がアヘン厳禁策をとると、イギリスはアヘン戦争を引き起こし、自由貿易の原則を中国に強制することで中国の市場化も狙った。

## 一橋大学 1989 2

問題 近代・現代

東アジア

### 第一次世界大戦前後の日本の国際状況

第一次世界大戦前と大戦後とを比較し、日本をとりまく国際状況がどのように変わったかを述べよ。

#### 解答例

第一次世界大戦前の日本は日英同盟によるイギリスとの協調関係を基調としつつ、日露戦争以降、東北地方への進出を目指していた。また、ロシアとは日露協約を結んで相互の勢力圏を画定したが、一方で東北地方に関心を持つアメリカ合衆国との対立を生じていた。第一次世界大戦で日本が対華二十一条要求を行って中国に対する利権を拡大する一方、ロシア革命を機にシベリア出兵を行うと、日本の大陸進出に対するアメリカの警戒は強まった。ドイツ領南洋諸島を日本が委任統治領としたことも太平洋方面でアメリカと利害が競合する事態をもたらした。一方で共産主義のソヴィエト政権の出現や中国の民族主義の台頭は、日米英三国共通の懸念事項となった。アメリカが提唱したワシントン会議では日米英仏の四カ国条約で太平洋の安全保障が図られる一方で日英同盟が解消された。中国問題では九カ国条約で日本の進出を抑制しつつ日米英の協調体制の再編が図られた。

革命派と立憲派の論争

中国最後の王朝である清朝に対する革命運動は、1894年孫文がハワイで（ a ）を結成した時点にさかのぼる。1900年の義和団事件のあと、革命派の勢力が拡大し、1905年には多数の留学生がいた東京で中国同盟会が結成された。その後、革命派は、（ b ）ら立憲派と激しい論争を展開することとなる。こうした中で、1911年、四川における鉄道国有化反対運動をきっかけとして、辛亥革命が起こり、南京で孫文が中華民国臨時大総統に就任した。しかし革命派の基盤はなお脆弱であり、華北を基盤として（ c ）の強大な軍事力を有していた袁世凱との間で、清朝皇帝の退位を条件に臨時大統領の地位を袁が譲り受けるという妥協的な取引を余儀なくされた。革命派の宋教仁は（ d ）を結成し、議会の多数を制して議院内閣制により袁世凱の力に対抗しようとしたが、逆に暗殺された。こうして、革命の成果は半ばに終わり、孫文らは再び日本に亡命した。

問い （ a ）から（ d ）に当てはまる語句を答えなさい。a, c, dには組織名, bには人名が入る。また、下線部の革命派と立憲派の論争について説明しなさい。（全体で200字以内）

解答例

a 興中会 b 梁啓超 c 北洋軍 d 国民党

立憲派は、日本の明治憲法を規範として、清朝の皇帝を維持し議会と憲法を持つ立憲君主政の樹立をはかった。また儒学を中心として、伝統的な知識人による支配をめざした。一方の革命派は、皇帝支配および満洲人支配の打倒と国民国家の建設を主張した。彼らは儒学思想を排除し、封建思想から解放された民衆が主体的に政治に参加する、人民主権に基づく共和国の樹立を追求した。

開化派

朝鮮は1876年の日朝修好条規について、1880年代初めに西洋諸国とも条約を結び、こうした新しい外交関係と清との冊封関係が併存したことによって、国際政治の複雑な圧力を受けるようになった。そのような状況のもとで、内政の改革と国家の自立・独立をめざす改革派である、開化派の勢力が形成され、成長していった。1884年の金玉均らの行動、1894～95年に進められた政治改革（甲午改革と称される）、1898年の独立教会による改革運動は、開化派の運動の代表的なものであった。

問い 以下に掲げる史料を参照して、1880～90年代に開化派のめざした改革はどのようなものであったのか、それは朝鮮の社会と政治をどのように変えたのかを、説明しなさい。なお、史料は現代語訳したものであり、一部に意識しているところがある。（200字以内）

〔史料1〕金玉均らが樹立した政権による改革方針（抜粋）

- 一 大院君に日ならずして、ご帰国いただく事（朝貢の虚礼は廃止する）。
- 一 門閥を廃止し、以て人民平等の権を制定し、人を以て官を選ぶことにし、官を以て人を選ぶことのないようにする事。

〔史料2〕1884年7～8月（陽曆）に開化派政権の決定した改革方針（抜粋）

- 一 今より以後、国内外向けの公私の文書は、開国紀年を書く事。
- 一 門閥、両班と常民の等級を打破し、貴賤に拘らず人材を選び用いる事。
- 一 公私奴婢の制度は一切廃止し、人身の売買を禁止する事。
- 一 一切の税として納めてきた米・粟・大豆・綿布・麻布は、みな代錢（錢による納付）とすること。

\*開国紀年：朝鮮王朝が建国された1392年を元年とする紀年法

〔史料3〕1898年11月2日の「中枢院官制改正件」（抜粋）

第一条 中枢院は左記の事項を審査議定する場所とする事

- 一 法律・勅令の制定・廃止、或いは改正に関する事項
- 二 議政府の議を経て上奏する一切の事項

六 人民の献議する事項

第三条 ……議官の半数は政府が……会議推薦して上奏し、半数は人民協會中で二十七歳以上の人が政治法律学識に通達した者から投票選挙する事。

第十六条 本官制第三条中の人民選挙は、当分の間は独立協会で行う事

\*中枢院は1894年12月に設置された政府の諮問機関であり、議政府は当時における政府の名称である。

解答例

開化派は、両班制にもとづく官吏登用の撤廃や封建的身分制度の打破をめざし、税の錢納化や地方官吏の不正防止などを提起した。対外関係では朝貢国の立場を改めて、対等な主権国家をめざした。国内改革の多くは失敗に終わったが、大衆の自主独立意識の高揚や国民意識の形成を促し、愛国啓蒙運動に発展した。対外的には日清戦争を機に中国との宗属関係が完全に否定され、大韓帝国と改称することで自主独立国であることを示した。

イギリスの東南アジア経営

次の文章は、1820年代初頭に植民地官僚ラッフルズが彼の母国イギリスとアジアとの交易について述べたものである。これを読んで問1、問2に答えなさい。

私がイギリスの国旗をかかげたとき、その人口は二百人にも達しないほどでした。三ヶ月のうちに、その数は三千人に及び、現在は一万人を越えております。主としてシナ人であります。最初の二ヶ月のあいだに主として原住民の色々な種類の船が百七十三隻も到着したり、出帆したりしました。それはすでに重要な商港となったのです。

(中略)

それは積極的にオランダからは何も奪いませんが、しかも、私たちににとってはすべてであります。それは私たちにシャム・カムボヂャ・コーチシナその他とともにシナおよび日本に対する支配をあたえます。……この港を通じてシナへイギリスの綿製品を導入することに関して観察なさっていることは一つ非常に重要な問題であります。……インドが充分廉価に製造することができなくても、イギリスはそうすることができます。……私はシナの大部分がイギリスの綿製品をつけないという理由を見出すことはできません。……イギリスにおける東インド会社とシナにおける行商人の独占は、私たちの船舶や広東港における公正な競争といったようなものの観念を排除しております。……(A. )においてすべての目的は達せられるでしょう。……シナ人自身が(A. )にやってきて購買します。彼らは行商人の制限や着服なしに広東の色々な港に輸入する手段をもっております。シナの多くの総督は自分で秘密に外国貿易に従事しており(A. )は自由港として、かようにしてヨーロッパ・アジアおよびシナの間をむすぶ環となり、偉大な集散地となるのです。事実そうなっています。(信夫清三『ラッフルズ伝』より引用。但し、一部改変した。)

問1 文中の(A. )に入る地名を答えなさい。ところでラッフルズは(A. )における貿易の自由がアジアの物流を一変させると考えていますが、この思想との対比において、イギリスの東南アジアにおけるその後の政治的経済的活動の展開を述べなさい。(200字以内)

解答例

シンガポール。イギリスは海峡植民地を形成し、その後マレー半島内陸にも支配を拡大してマレー連合州を成立させ、錫鉱山を開発する一方、ゴムプランテーションも経営し、中国人やインド人の廉価な労働力を導入した。また、コンバウン朝を征服してビルマをインド帝国に併合し、米の生産を拡大した。そのためシンガポールは、インドと中国を結ぶ中継貿易の拠点から、東南アジアの産物の集散地及び、移民の寄港地に変質していった。

(199字)

## 清朝の交易体制の変化

次の文章は、1820年代初頭に植民地官僚ラッフルズが彼の母国イギリスとアジアとの交易について述べたものである。これを読んで問1、問2に答えなさい。

私がイギリスの国旗をかかげたとき、その人口は二百人にも達しないほどでした。三ヶ月のうちに、その数は三千人に及び、現在は一万人を越えております。主としてシナ人であります。最初の二ヶ月のあいだに主として原住民の色々な種類の船が百七十三隻も到着したり、出帆したりしました。それはすでに重要な商港となったのです。

(中略)

それは積極的にオランダからは何も奪いませんが、しかも、私たちににとってはすべてであります。それは私たちにシヤム・カムボヂヤ・コーチシナその他とともにシナおよび日本に対する支配をあたえます。……この港を通じてシナへイギリスの綿製品を導入することに関して観察なさっていることは一つ非常に重要な問題であります。……インドが充分廉価に製造することができなくても、イギリスはそうすることができます。……私はシナの大部分がイギリスの綿製品をつけないという理由を見出すことはできません。……イギリスにおける東インド会社とシナにおける行商人の独占は、私たちの船舶や広東港における公正な競争といったようなものの観念を排除しております。……(A. )においてすべての目的は達せられるでしょう。……シナ人自身が(A. )にやってきて購買します。彼らは行商人の制限や着服なしに広東の色々な港に輸入する手段をもっております。シナの多くの総督は自分で秘密に外国貿易に従事しており(A. )は自由港として、かようにしてヨーロッパ・アジアおよびシナの間をむすぶ環となり、偉大な集散地となるのです。事実そうなっています。(信夫清三『ラッフルズ伝』より引用。但し、一部改変した。)

問2 この時期の、ヨーロッパ諸国に対する清朝の交易体制について説明したうえで、その後の同国の交易体制の変化について述べなさい。(200字以内)

## 解答例

2 中華思想に基づく朝貢貿易の立場をとる清朝は、広州一港のみを貿易港として特権商人である公行に貿易を管理させ、茶などの片貿易による銀の流出を懸念したイギリスの自由貿易の要求も拒否した。イギリスはインド産のアヘンを中国へ密輸する三角貿易で銀の回収を図り、清朝がアヘンの取締を強化するとアヘン戦争を引き起こした。敗北した清朝は南京条約を結び、公行の廃止や五港開港を承認し、自由貿易体制に組み込まれていった。

(199字)

17世紀オランダのアジア貿易

空欄A.B.C.D.に当てはまる語句を答えなさい。なお、A, Bには人名, Cには政策名, Dには国名が入る。さらに、Dが17世紀アジアにおいて展開した活動について述べなさい。(200字以内)

解答例

A鄭芝竜, B鄭成功, C遷界令, Dオランダ。東インド会社を組織して、ジャワ島のバタヴィアを拠点に東南アジアの香辛料貿易に参入し、ポルトガルの商圏を奪ってマラッカも獲得する一方、イギリス勢力をモルッカ諸島のアンボイナ事件でインド方面へ撤退させ、ヨーロッパ向けの香辛料貿易を支配した。また、台湾を占領し、日本の銀と中国の生糸を中継する日中中継貿易にも参入し、江戸幕府が鎖国を強化すると、対日貿易も独占した。(200字)

三藩の乱

Bが台湾にその拠点を移した直後、漢人武将による清朝に対する大きな反乱が起こった。その反乱とは何であるかを述べたうえで、その経緯、清朝史において有した意味を論じなさい。(200字以内)

解答例

三藩の乱。明の降将呉三桂らは、清朝に仕えて反清復明運動鎮圧に活躍し、その功によって南方に藩王として封じられた。しかし康熙帝は、雲南王として自立の動きを見せた呉三桂らの勢力を警戒し、藩王の排除に乗り出した。それに対して呉三桂らが起こした反乱が三藩の乱であったが、清朝によって鎮圧された。鎮圧後、三藩の乱に呼応した台湾の鄭氏を征服して清の中国支配が確立し、雲南地方は直轄領に組み込まれて内地化が進んだ。(199字)

問題 現代

東アジア・西アジア・南アジア・ア

平和十原則

次の文章はある国際会議の最終コミュニケの冒頭部分である。この文章を読んで、問いに答えなさい。

アジア・アフリカ会議はビルマ、セイロン、インド、(A、 )及びパキスタンの各国首相の招請のもとに召集され、(B、 )年4月18日から24日まで(C、 )で会合した。主催諸国のほか次の24カ国が会議に参加した。

1.アフガニスタン、2.カンボジア、3.中華人民共和国、4.エジプト、5.エチオピア、6.ゴールド・コースト、7.イラン、8.イラク、

9.日本、10.ヨルダン、11.ラオス、12.レバノン、13.リベリア、14.リビア、15.ネパール、16.フィリピン、17.サウジアラビア、18.スーダン、19.シリア、20.タイ、21.トルコ、22.ベトナム民主共和国、23.ベトナム国、24.イエメン

アジア・アフリカ会議はアジア・アフリカ諸国に共通の利害と関心のある問題を検討し、各国国民が一層十分な経済的、文化的及び政治的協力を達成しうるための方法及び手段を討議した。

(国名は原文に基づく。また、問題作成のため文章の一部改変を行った)

問 空欄(A、 )、(B、 )、(C、 )に入る適当な語句を記しなさい。なお、Aには国名、Bには西暦年、Cには都市名が入る。次に、このコミュニケのなかで宣言された内容とはどのようなものであったかを説明しなさい。

解答例

Aインドネシア。B1955。Cバンドン。

領土主権の尊重や内政不干渉など平和五原則を受け継ぎ、反植民地主義の立場から人種と国家間の平等を掲げ、紛争の平和的解決や国連憲章の尊重を主張した。(72字)

問題 現代

東アジア

西安事件

次の文章はある国際会議の最終コミュニケの冒頭部分である。この文章を読んで、問いに答えなさい。

アジア・アフリカ会議はビルマ、セイロン、インド、(A、 )及びパキスタンの各国首相の招請のもとに召集され、(B、 )年4月18日から24日まで(C、 )で会合した。主催諸国のほか次の24カ国が会議に参加した。

1.アフガニスタン、2.カンボジア、3.中華人民共和国、4.エジプト、5.エチオピア、6.ゴールド・コースト、7.イラン、8.イラク、

9.日本、10.ヨルダン、11.ラオス、12.レバノン、13.リベリア、14.リビア、15.ネパール、16.フィリピン、17.サウジアラビア、18.スーダン、19.シリア、20.タイ、21.トルコ、22.ベトナム民主共和国、23.ベトナム国、24.イエメン

アジア・アフリカ会議はアジア・アフリカ諸国に共通の利害と関心のある問題を検討し、各国国民が一層十分な経済的、文化的及び政治的協力を達成しうるための方法及び手段を討議した。

(国名は原文に基づく。また、問題作成のため文章の一部改変を行った)

問 この会議に中華人民共和国を代表して参加した人物は、1936年にその後の中国国民党と中国共産党との関係に大きな影響を与えた出来事のなかで重要な役割を果たした。その人物とは誰であり、その出来事とはどのようなことであったかを説明しなさい。(150字以内)

解答例

周恩来。満洲事変後に日本軍の侵略が激化し、抗日民族運動が拡大するなか、中国共産党の八・一宣言の影響を受けた中国国民党の張学良らが、内戦の停止を求めて蒋介石を監禁する西安事件を起こした。中国共産党の周恩来は延安から西安に来て、蒋介石を説得した結果、蒋介石は抗日に同意し、第2次国共合作の道を開いた。(148字)

国民会議派

次の文章はある国際会議の最終コミュニケの冒頭部分である。この文章を読んで、問いに答えなさい。

アジア・アフリカ会議はビルマ、セイロン、インド、(A, )及びパキスタンの各国首相の招請のもとに召集され、(B, )年4月18日から24日まで(C, )で会合した。主催諸国のほか次の24カ国が会議に参加した。

- 1.アフガニスタン, 2.カンボジア, 3.中華人民共和国, 4.エジプト, 5.エチオピア, 6.ゴールド・コースト, 7.イラン, 8.イラク,
  - 9.日本, 10.ヨルダン, 11.ラオス, 12.レバノン, 13.リベリア, 14.リビア, 15.ネパール, 16.フィリピン, 17.サウジアラビア, 18.スーダン, 19.シリア, 20.タイ, 21.トルコ, 22.ベトナム民主共和国, 23.ベトナム国, 24.イエメン
- アジア・アフリカ会議はアジア・アフリカ諸国に共通の利害と関心のある問題を検討し、各国国民が一層十分な経済的、文化的及び政治的協力を達成しうるための方法及び手段を討議した。

(国名は原文に基づく。また、問題作成のため文章の一部改変を行った)

問 この会議にインドを代表して参加した人物は、英国の植民地支配下にあったインドを独立に導いた民族主義的政治団体の指導者の一人であった。この人物および政治団体の名前を記し、次に、この団体の政治運動の展開過程を説明しなさい。(150字以内)

解答例

ネルー。国民会議派。結成当初は親英的な知識人の団体であったが、ベンガル分割令に反対して急進化し、カルカッタ大会で自治要求を含む四綱領を採択した。第一次世界大戦後はガンディーの指導のもと、非暴力不服従運動で民衆を民族運動に動員し、ラホール大会以降は完全自治を掲げてヒンドゥー教徒の独立運動を指導した。(149字)

世界恐慌後のインドの民族運動

次の2つの文章A, Bを読んで、それぞれの問いに答えなさい。

A 貿易と雇用が不振に陥り、企業は赤字を招いていますが、これは現代世界史上で最悪といってよいでしょう。どの国も例外ではありません。今日、全世界の何百万もの家庭にみられる窮乏と……不安とは、はなはだしいものがあります。世界の三大工業国であるイギリス、ドイツ、アメリカにおいて、おそらく1,200万人の工業労働者が失業中であると私は推察しています。しかし、世界の主要農業国……では、何百万人という小農が、生産物価格の下落のために破滅に瀕しており、収穫後の彼らの収入が、全農作物の生産に要した費用よりもはるかに少ないという状態です。小麦、羊毛、砂糖、綿花のような世界の重要商品や、その他実に多くの商品の価格下落がまったく破壊的だからです。

(J.M.ケインズ著、『ケインズ全集 第9巻 説得論集』から 一部改変)

これは、イギリスの著名な経済学者ケインズが失業に関して行った連続ラジオ講演の原稿として執筆され、1931年1月に公表された文章から抜粋したものである。この中で、彼は主要農業国としてカナダ、オーストラリア、南アメリカ諸国などを念頭においているが、それ以外の諸国においても同様の惨状が見られた。この事態がきっかけとなって、(1)世界的な規模で貿易構造に変化が生じ、また、イギリスの植民地インドでも、第一次世界大戦の影響も加わり、重要な(2)政治的展開や、(3)経済的な変化が生じた。

問い 下線部(1), (2), (3)を説明しなさい。(200字以内)

解答例

各国は、自国の勢力圏に特惠関税を設定して域外からの輸入に高関税をかけるブロック経済政策を展開した。インドはイギリスのポンド経済圏に組み込まれた結果、製品市場・原料供給地としての収奪が強化された反面、インド工業は経済圏外への輸出による利益を失った。このようなインド経済の不振から民族資本家がイギリスに不満を抱き、国民会議派の完全独立の方針やガンディーの塩の行進に協力したため民族運動が高揚した。

日本の朝鮮支配

B 日本における植民地支配の下で朝鮮が担わされた役割は、多様であった。まず重視されたのは食糧供給基地としての役割、日本本国における食糧供給の調整弁としての役割であった。また、中国に隣接する地理的位置に規定されて、中国侵略のための基地としての役割を担わされた。そして、戦争が拡大されるにつれて、総力戦体制の一環に深く組み込まれ、朝鮮の人びとはその底部を支える労働力・兵力として広範に動員されるに至ったのである。

問い 1920年代後半から1940年代前半までの時期において、日本の支配の下で朝鮮がどのように位置づけられたのか、その推移について説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(200字以内)

米の増産    世界恐慌    満州事変  
日中戦争    徴兵制

解答例

日本国内の米不足を産米増殖計画で補おうと米の増産を図った。世界恐慌が起こると打開策を満州進出に求め、満州事変を機に朝鮮人の開拓移民が増加した。日中戦争が始まると大陸兵站基地として位置づけられ、軍需工業が育成された。同時に皇民化政策も採られ、日本語強要や創氏改名等が推し進められた。また労働力の動員も募集から始まり、やがて徴用令が適用された。兵力動員も志願兵制からまもなく徴兵制となった。

日本の朝鮮支配

日露戦争を機に、日本は朝鮮（韓国）に対する支配を強め、戦争の終結から5年目に当たる1910年には朝鮮を植民地化した。以下に掲げる史料1～2は、この時期に日本・韓国両政府の間に結ばれた重要な取り決め（条約）であり、それぞれ、その一部を示したものである。

〔史料1〕1904年2月23日調印、日韓議定書

第3条 大日本帝国政府ハ大韓帝国ノ独立及領土保全ヲ確實ニ保証スル事

第4条 第三国ノ侵害ニ依リ若クハ内乱ノ為メ大韓帝国ノ皇室ノ安寧或ハ領土ノ保全ニ危険アル場合ハ大日本帝国政府ハ速ニ臨機必要ノ措置ヲ取ルヘシ而シテ大韓帝国政府ハ右大日本帝国政府ノ行動ヲ容易ナラシムル為ニ十分便宜ヲ与フル事

大日本帝国政府ハ前項ノ目的ヲ達スル為メ軍略上必要ノ地点ヲ臨機取用スルコトヲ得ル事

〔史料2〕1907年7月24日調印、第3次日韓協約

第1条 韓国政府ハ施政改善ニ関シ統監ノ指導ヲ受クルコト

第2条 韓国政府ノ法令ノ制定及重要ナル行政上ノ処分ハ予メ統監ノ承認ヲ経ルコト

第4条 韓国高等官吏ノ任免ハ統監ノ同意ヲ以テ之ヲ行フコト

第5条 韓国政府ハ統監ノ推薦スル日本人ヲ韓国官吏ニ任免スルコト

問1 日露戦争開戦後に日本の朝鮮に対する支配の強化はどのように進んだのか、戦争後にそれはどのようにして植民地化（「韓国併合」）へと進んだのか、また、こうした日本の政策に対する朝鮮内部における反応はどのようなであったのか、説明しなさい。（200字以内）

解答例

日本は日韓議定書によって日本軍の行動の自由を、第1次日韓協約によって政府顧問を承認させた。戦争後の1905年には第2次日韓協約によって外交権を奪い保護国として韓国統監府を設置し、1907年のハーグ密使事件を機に第3次日韓協約によって内政権を掌握して軍隊も解散させた。それに対し抗日義兵闘争が激化し、愛国啓蒙運動も推進された。しかし日本は安重根による伊藤博文暗殺を機に韓国併合条約を結んで韓国を併合した。（197字）

日露戦争後の朝鮮と中国

日露戦争を機に、日本は朝鮮（韓国）に対する支配を強め、戦争の終結から5年目に当たる1910年には朝鮮を植民地化した。以下に掲げる史料1～2は、この時期に日本・韓国両政府の間に結ばれた重要な取り決め（条約）であり、それぞれ、その一部を示したものである。

〔史料1〕1904年2月23日調印、日韓議定書

第3条 大日本帝国政府ハ大韓帝国ノ独立及領土保全ヲ確實ニ保証スル事

第4条 第三国ノ侵害ニ依リ若クハ内乱ノ為メ大韓帝国ノ皇室ノ安寧或ハ領土ノ保全ニ危険アル場合ハ大日本帝国政府ハ速ニ臨機必要ノ措置ヲ取ルヘシ而シテ大韓帝国政府ハ右大日本帝国政府ノ行動ヲ容易ナラシムル為ニ十分便宜ヲ与フル事

大日本帝国政府ハ前項ノ目的ヲ達スル為メ軍略上必要ノ地点ヲ臨機取用スルコトヲ得ル事

〔史料2〕1907年7月24日調印、第3次日韓協約

第1条 韓国政府ハ施政改善ニ関シ統監ノ指導ヲ受クルコト

第2条 韓国政府ノ法令ノ制定及重要ナル行政上ノ処分ハ予メ統監ノ承認ヲ経ルコト

第4条 韓国高等官吏ノ任免ハ統監ノ同意ヲ以テ之ヲ行フコト

第5条 韓国政府ハ統監ノ推薦スル日本人ヲ韓国官吏ニ任免スルコト

問2 清朝政府は同じ頃、「光緒新政」といわれる一連の制度改革を実施した。この「新政」の重要な項目を二つ以上あげてその結果も述べなさい。（200字以内）

解答例

「新政」は科挙制を廃止し、海外留学を勧めた。留学生の一部は革命派に転じ、帰国して整備が進められていた新軍の将校となったため新軍に革命派が浸透した。また実業振興政策で成長した民族資本家や郷紳層は、憲法大綱の公布や国会開設の公約など清朝が進める立憲君主政導入に期待し、立憲派を形成した。しかし幹線鉄道国有化が強行されると、利権回収運動の担い手であった立憲派は反発し、革命派とともに辛亥革命を引き起こした。

(200字)

## 太平天国の乱

「[A] は1860年代に内陸諸省に対する支配を失ったあとは戦闘を沿岸地域に拡大してさらなる高揚を示した。杭州・寧波・蘇州・上海が占領された。… [A] との闘いの最後の数年、文官出身の指揮官たちは西洋製の火器や汽船に感銘を深くした。そのため [A] の鎮圧のあと総督となった曾国藩・李鴻章・左宗棠の下で機器局や船政局（造船所）が南部のいくつかの都市で作られた。機器は海外から購入し、技師も外国から雇った。対外関係が悪化した1870年代にもこの傾向が続いた。造船会社が組織され、10代の留学生の一団が西学を学ぶためにアメリカに到着した。華北で炭鉱が開かれ、電信が主要都市を結んだ。こうした一連の改革の動きは [B] と呼ばれた。…その後、中国の立て続けの外交上の失敗は [B] をまずいものに印象づけ、そこに費やされた貴重な時間を無駄にしたかのように思わせた。しかし、中国近代史において、この運動は中国が経験することになる長期にわたる「失敗」の最初のものにすぎなかった。この一連の出来事に積極的な観点が与えられるのは最近になってからのことである。歴史の奥深さをもってすれば、これらは一見失敗であるかのようにみえるが、実は巨大な革命に向かう必要な一歩だったとみることができる。「（黄仁宇著、山本英史訳『中国 マクロヒストリー』に基づき、問題作成のため、文章の省略・改変を行った。）

問1.空欄 [A] に当てはまる語句を記し、次に、その鎮圧に曾国藩・李鴻章・左宗棠がどのような役割を果たしたのか、具体的に述べなさい。（問題番号の記入を含め、100字以内）

## 解答例

太平天国。曾国藩は、清朝正規軍の八旗や緑営が無力だったため、郷紳として影響力を持つ郷里の人々を中核に、湘勇と称する義勇軍の郷勇を組織した。同様に李鴻章は淮勇を、左宗棠は楚勇を組織し、鎮圧に活躍した。

## 洋務運動

「[A]は1860年代に内陸諸省に対する支配を失ったあとは戦鬪を沿岸地域に拡大してさらなる高揚を示した。杭州・寧波・蘇州・上海が占領された。…[A]との闘いの最後の数年、文官出身の指揮官たちは西洋製の火器や汽船に感銘を深くした。そのため[A]の鎮圧のあと総督となった曾国藩・李鴻章・左宗棠の下で機器局や船政局（造船所）が南部のいくつかの都市で作られた。機器は海外から購入し、技師も外国から雇った。対外関係が悪化した1870年代にもこの傾向が続いた。造船会社が組織され、10代の留学生の一団が西学を学ぶためにアメリカに到着した。華北で炭鉱が開かれ、電信が主要都市を結んだ。こうした一連の改革の動きは[B]と呼ばれた。…その後、中国の立て続けの外交上の失敗は[B]をまずいものに印象づけ、そこに費やされた貴重な時間を無駄にしたかのように思わせた。しかし、中国近代史において、この運動は中国が経験することになる長期にわたる「失敗」の最初のものにすぎなかった。この一連の出来事に積極的な観点が与えられるのは最近になってからのことである。歴史の奥深さをもってすれば、これらは一見失敗であるかのようにみえるが、実は巨大な革命に向かう必要な一歩だったとみることができる。「（黄仁宇著、山本英史訳『中国 マクロヒストリー』に基づき、問題作成のため、文章の省略・改変を行った。）

問2.空欄[B]に当てはまる語句を記し、次に、こうした一連の改革を推進した人たちのとった基本的な立場・主張がどのようなものであったか、述べなさい。

（問題番号の記入を含め、100字以内）

## 解答例

洋務運動。西洋の軍事技術の優秀性を認め、その導入を図って近代的な工場の建設を進めたが、儒学を基盤とする伝統的な中国の価値体系とそれに基づく既存の王朝支配体制の存続を図る、中体西用の立場だった。

## 1870～80年代の清朝の対外関係

「[A] は1860年代に内陸諸省に対する支配を失ったあとは戦鬪を沿岸地域に拡大してさらなる高揚を示した。杭州・寧波・蘇州・上海が占領された。… [A] との闘いの最後の数年、文官出身の指揮官たちは西洋製の火器や汽船に感銘を深くした。そのため [A] の鎮圧のあと総督となった曾国藩・李鴻章・左宗棠の下で機器局や船政局（造船所）が南部のいくつかの都市で作られた。機器は海外から購入し、技師も外国から雇った。対外関係が悪化した1870年代にもこの傾向が続いた。造船会社が組織され、10代の留学生の一団が西学を学ぶためにアメリカに到着した。華北で炭鉱が開かれ、電信が主要都市を結んだ。こうした一連の改革の動きは [B] と呼ばれた。…その後、中国の立て続けの外交上の失敗は [B] をまずいものに印象づけ、そこに費やされた貴重な時間を無駄にしたかのように思わせた。しかし、中国近代史において、この運動は中国が経験することになる長期にわたる「失敗」の最初のものにすぎなかった。この一連の出来事に積極的な観点が与えられるのは最近になってからのことである。歴史の奥深さをもってすれば、これらは一見失敗であるかのようにみえるが、実は巨大な革命に向かう必要な一歩だったとみることができる。「（黄仁宇著、山本英史訳『中国 マクロヒストリー』に基づき、問題作成のため、文章の省略・改変を行った。）

問3. 「対外関係が悪化した外交の失敗」とあるが、1870-80年代における清朝の対外関係を、対ロシア、対フランスの場合について、具体的に述べなさい。（問題番号の記入を含め、200字以内）

## 解答例

ロシアに対しては、清朝への中央アジアのイスラーム教徒の反乱に乗じてロシアがイリ地方を占領したので、反乱を鎮圧した清朝はロシアに占領地の返還を要求し、イリ条約でその大部分を奪回したが、一部はロシアの領有を承認した。フランスに対しては、フランスがヴェトナムの阮朝にユエ条約を強制して保護国とすると、これに反対して劉永福の黒旗軍を支援して清仏戦争を戦ったが敗北し、天津条約で阮朝の宗主権を放棄した。

## ムガル帝国の社会・制度

次の文章は、いずれも、17世紀後半にアジアの2つの帝国を訪問した2人のフランス人の見聞録の一部である。それぞれの文章を読んで、問題に答えなさい。

(合わせて400字以内)

1 次の文章A、Bは、1659年から1668年まで10年近くを医官、哲学者としてムガル帝国に仕えたフランス人ベルニエの著書『ムガル帝国誌』（1670年）から抜粋したものである。

A 「シャー・ジャハーンの子4人のうち、長男はダーラー、三男はアウラングゼーブである。ダーラーは、マホメット教徒であるが、ヒन्दゥー教徒に向かえばヒन्दゥー教徒になり、キリスト教徒に向かえばキリスト教徒になる。ヒन्दゥー教徒の学僧を何人か、いつも側近に侍らせている。アウラングゼーブがダーラーの首を切らせるために使った口実は、彼が背教者、偶像崇拜者になってしまった、というものである。」

B 「この国土の上には、大ムガルの支配力が十分に及ばない民族が少なからず居て、大抵は今でも独自の首長、君主を戴いており、この君主たちは、強制されてしぶしぶ大ムガルに従い、貢物を納めているのです。王国全土に有力なラージャつまりヒन्दゥーの君主があり、もしも力を合わせれば、大ムガルにとってひどく厄介な問題になるでしょう。大ムガルは敵国の真ただ中に居るようなもので、常に大軍を維持していなければなりません。軍隊を構成するのは、一部はラージャやパタン人ですが、主として王と同じムガル人か、少なくともそう見なされている人間です。大ムガルはラージャたちにたいそう多額の俸禄を当てがい、外国人でマホメット教徒である他の貴族たちと同等に見なし、いつも身辺においている軍勢の中に入れて、野戦場にいる軍隊に加えたりしています。貴族は、低い官職から高い者へと進んでいくのが、ほぼ一般的な慣習です。彼らの俸禄は馬の数で決まります。土地の割り当てを受けます。」(ベルニエ著、関美奈子、倉田信子共訳、『ムガル帝国誌』岩波書店、に基づく。)

問1 引用文Aのダーラーとアウラングゼーブは、宗教・異教徒(特に、ヒन्दゥー教徒)に対して、対照的な態度を示している。この事を念頭において、ムガル帝国の宗教政策とその変化を説明しなさい。(60字以内)

問2 引用文Bを読み、ムガル帝国の統治・行政・財政機構の特徴を説明しなさい。(140字以内)

## 解答例

### 問1

アクバル帝はジズヤを廃止するなどヒन्दゥーとの融和政策をとったが、アウラングゼーブ帝は強硬政策をとり、ジズヤを復活した。

### 問2

全国を州・県・郡にわけて土地測量を行い徴税制度を整備して地税を財政の基盤としする一方、貢納を義務として地方勢力の存続を認めた。中央ではマンサブ制の官僚制を整備し、位階に応じた兵力を義務づけ、上位者には俸禄として徴税権付きの土地を割り当てるジャーギール制をとった。

典礼問題, 八旗

次の文章は、いずれも、17世紀後半にアジアの2つの帝国を訪問した2人のフランス人の見聞録の一部である。それぞれの文章を読んで、問題に答えなさい。(合わせて400字以内)

2 次の文章は、1697年に、フランス人宣教師ブーヴェが、当時の中国皇帝についてフランス国王に報告したものである。

「[ A ]は順治帝の王子であり、後継者で御座います。この順治帝は、満州族、言い換えれば、満州国民の、(注)韃靼王でありまして、この満州族は、①東韃靼から発して、シナの東北に位置する遼東地方にまず国を建て、ついで現世紀の中葉、この大満州の全土を征服したのであります。…そもそも韃靼人は常に戦争を心がけておりますから、一切の武芸を尊んでおります。また漢人は、学問こそ自国の殆ど全価値だと見なしております。それ故、[ A ]は文武両道に精通して、自己の統治すべき韃靼人にも、漢人にも、好感を持たれようと努められたのであります。…遂に皇帝は戦乱の障害から全く解放されましたし、また八年前、幸いにもロシアと締結された講和条約のおかげで、シナ人、韃靼人の如何を問わず、等しくシナ臣民が、現在、この深淵な平和を楽しむに至りましたので、皇帝は昔よりもますます熱心に西洋科学の研究に出精されたのであります。②その頃、我々四人の耶蘇会士が北京にいました。皇帝は西洋科学のご進講にこの四人を起用される光栄を賜ったのであります。」

(ブーヴェ著、後藤末男訳に基づき、出題に際して、一部表記を改めた。)

注 韃靼とは、タタールの音訳であり、元来、モンゴル系部族を指す呼称である。しかし、もともと一部族を指すにすぎなかった名称は、次第に拡大されて満州族のようなツングース系部族をも含むようになった。イエズス会士が韃靼と言った場合には、満州を指すことが多い。

問1 文中の中国皇帝 [ A ] の名前を答えなさい。

問2 この報告を受け取ったフランス国王の名前を答えなさい。

問3 下線①は、帝国が成立する過程について述べている。この時に編成された、帝国の軍事・社会制度について説明しなさい。(50字以内)

問4 下線②は、宣教師と皇帝との関係を伝えている。この両者の関係を踏まえて、17世紀末から18世紀初頭にかけての、[ A ] の対キリスト教政策について説明しなさい。(140字以内)

解答例

問1 康熙帝

問2 ルイ14世

問3

満洲族は八旗に再編して軍事行政の単位とし、旗地を支給した。後に蒙古・漢人の八旗を加えた。

問4

康熙帝は、天文学や砲術・医学を伝え、孔子崇拝や祖先礼拝の典礼を承認したイエズス会宣教師を登用し、キリスト教の布教を認めた。しかし後続の他宗派が典礼を批判し典礼問題が起こり、教皇もイエズス会の布教方法を異端とすると、典礼否認派の入国を禁止し、実質上イエズス会のみ布教を認めた。

## 華僑と印僑

次の文章Aは、インドの民族主義運動指導者の『自叙伝』から抜粋した19世紀末アフリカ南部における経験の記述、Bは同時期に変法運動で活躍した中国人の海外における経験の記述とその解説である。これらを読み、また、表1～3も参照して、下記の問いに答えなさい。

A

「『あなたは、本当にホテルに泊まれると思ったのですか?』と彼(ヨハネスバーグで事業を行っている知人)は言った。私は尋ねた。『どうして、いけないのですか?』彼は言った。『ここに二、三日おられれば、お分かりになるでしょう。私どもがこんな国に来て生活しているのは、ただ金もうけのためです。侮辱をこらえるぐらい平気です。ですから、ここにいられるのです。』こう言ってから、彼は、インド人が南アフリカでなめている困苦、辛さの数々を物語ってくれた。彼ら(南アフリカにいるインド人)の中には、労働者の境遇から身を起こして、土地や家屋の所有者になりあがる者が多数あった。彼らに続いて、インドから商人がやって来て、商業を営みながら定住した。……これには、白人の商人があわてた。

(南アフリカにおけるインド人の権利を守るという目的を達成するため)私たちは常設的な大衆組織を持つと、いうことを決定した。こうして、……インド人会議が誕生した。この会議には、南アフリカ生まれのインド人や会社事務員の階層は会員として参加してきたが、不熟練賃金労働者、年季契約農業労働者は、まだ枠外に留まっていた。……彼らには、基金を寄付したり、入会したりするなどして、会に所属する余裕などあろうはずがなかった。

なおなし遂げていないことが一つあった。それは、インド人移民を、祖国に対する義務に気づかせることであった。」

(颯山芳郎訳に基づく。)

B.「この三つの業種(靴・タバコ・ほうきの製造業)は以前はとても盛んで、出資者も同胞で、これらで財をなした同胞の商人も少なくなかった。だがのちに労働組合がそれをひどく妬み、あれこれ法律を作っては圧迫した。たとえばルソン産の葉巻タバコは政府の許可がないと販売できず、わが同胞労働者の製造したタバコを政府は認可しない、というのがその例である。こうしたことはもともと国際ルールに大いにとるところだ。……強権というほかない。」

この文章は梁啓超が清朝からの弾圧にあつて亡命中、1903年にカナダ・アメリカの諸都市を回って記した紀行文『新大陸遊記』から、サンフランシスコでの「中国人の営業自由の制約」について紹介した部分の抜粋である。同じく亡命した康有為が東南アジアで同胞を結集し、支援を要請するために保皇会を組織しており、梁啓超のこの旅は、保皇会分会創設のためでもあった。また、ほとんど同時期に、早くから亡命生活を送った[ア]も、中国が列強からの侵略の危機にさらされているのは、「中国が自立できないためであり、中国が自立できないと、世界平和は保てない」として、在外同胞の支援を求めて回った。1905年に[ア]は東京において中国同盟会を結成し、東南アジアでの分会結成を目指した。

〔問い〕インド人と中国人が大量に海外に移動し、海外で生活の基盤を築き始めたのは、表1、2から理解されるように、19世紀中葉以降のことであった。この大量移動は、いかなる歴史的状況の下で起こったのか、さらに、それらの人々がそれぞれの出身国の国内政治といかなる関連を持ったのか、また、その大量移動が移住先の社会に現在いかなる影響を与えているのかを、述べなさい。解答にあたっては、インドと中国の双方にふれ(その字数の割合は問わない)、また、Aの『自叙伝』の著者、およびBの文章における空欄[ア]がそれぞれ誰であるかも述べなさい。

## 解答例

19世紀前半から黒人奴隷貿易が禁止される一方、東南アジアやアフリカで植民地支配が拡大してプランテーションや鉱山の労働力が求められ、合衆国でもゴールドラッシュや大陸横断鉄道建設で安価な労働力の需要が高まった。中国はアヘン戦争以後社会が混乱し、インドはシパーヒーの乱後のイギリス支配の強化と鉄道建設によって商品作物栽培の強制が拡大し、課税負担が増大したため農村が荒廃した。このため両地域から困窮化した人々が苦力として移民した。彼らは当初最底辺の労働者であったが、出身別の集団を維持し、相互扶助を行って社会的上昇を果たした。その結果各地に複合社会が出現し、白人や現地人との対立を招いた。彼らは出身国政府の保護を期待し、その強化のための改革の必要を認識して、インドではAのガンディーが南アフリカの体験に基づき展開した非暴力・不服従運動を、中国では利権回収運動やアの孫文の革命運動を支援するようになった。(396字)

### イスラーム帝国

A広大なイスラーム世界は、10世紀におけるアッバース朝の衰退以降、イスラーム諸王朝が分立する時代に入る。しかし、ヨーロッパ史で大航海時代といわれる16世紀には、三つの強大な王朝が鼎立する時代を迎えた。この三つの王朝の崩壊過程から、イスラーム世界の近代は生まれる。その一つは、イスタンブルを首都とするオスマン朝であるが、あとの二つの王朝は何か。その名前を述べ、それぞれの王朝の成立経緯（いつ、誰によって建設され、どの地域を、どのような理念で統治したのか、など）を簡潔に述べなさい。（200字以内）

### 解答例

一つはサファヴィー朝で、16世紀初め、ティムール帝国滅亡後の混乱にあったイラン地方で、神秘主義教団の教主イスマーイール1世が建国したシーア派王朝である。スンナ派のオスマン帝国に対抗し、イランの伝統的な君主の称号であるシャーを用いた。もう一つはムガル帝国で、16世紀前半、ティムールの子孫であり、チンギス=ハンの血統をも引くと称するバーブルがインドに建国し、ティムール帝国とモンゴル帝国の復興を理念とした。（200字）

## b文学革命

B次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

中国はプロレタリア文化大革命の終結後、1978年末からは「改革と開放」政策へと路線の大転換をうちだした。国内では、プロレタリア文化大革命時代には批判されて発言を封じられていた知識人たちも多くが復権し、学校教育の混乱も修復され、1980年代をとおして、民主化への動きが作られた。ゴルバチョフが訪中して中ソ関係正常化がはかられることになった年には、民主化要求が高まったが、天安門事件へと展開し、政府の武力鎮圧による流血の惨事に終わった。

その年の民主化要求運動においては、北京の学生が中心となって広がっていったこともあり、同様にして広まった70年前の[ ]が強く意識されることになった。1980年代の思想界で影響力をもった知識人のひとり、李沢厚は、1986年に当時の中国の課題を思索するなかで、歴史をふりかえり、[ ]をめぐって以下のような認識を示していた。

啓蒙的な新文化運動は、始まると間もなく救国の反帝政治運動に遭遇し、両者はすぐに一つの流れに合流していったのであった。(中略)

[ ] 時期の啓蒙と救国が矛盾することなく進み、互いに促進しあった局面は、長くは続かなかった。救国という歴史的局面と苛烈な現実闘争のなかで、啓蒙という思想的主題は、またもや、救国の政治的主題に圧倒されてしまったのである。(砂山幸雄訳、李沢厚「啓蒙と救国の二重変奏」1989年より)

このような「啓蒙と救国」の関係づけは、当初から議論をまきおこし、上述の民主化要求運動では[ ] 期に唱えられたスローガン「民主と科学」が叫ばれることにもなったが、天安門事件がおこると、李沢厚らは政府によってふたたび発言を制限された。

問1 空欄[ ]の中に適切な語句を入れて、文を完成させなさい。空欄には、すべて同じ語句が入ります。答は解答欄の1行分を使用しなさい。

問2 李沢厚の文章において「啓蒙と救国」として言及されている内容について、それぞれの運動の時期と機能、中心人物・刊行物などにもふれ、具体的に述べなさい。(175字以内)

## 解答例

## 五・四運動。

啓蒙の新文化運動は、1915年の対華二十一条受諾を背景に、陳独秀が上海で創刊した「新青年」を中心とし、西欧思想を紹介して中国の封建制と儒教文化を批判し、その手段として白話運動を展開した。救国の反帝政治運動は、五・四運動を機に孫文が結成した中国国民党と、陳独秀らがコミンテルンの指導下に結成した中国共産党が中心であり、両者は1924年に合作を行った。

洋務運動と変法運動

問題A,Bに答えなさい。

A 次の文中に述べられている19世紀後半に試みられた「二世代の改革」とは、具体的に何を指しているのか。

[ ] 内の空欄に入るべき適当な言葉（5字以内）を考え、この二つの改革の相違点を説明しなさい。

（200字以内）

19世紀の中頃から20世紀の初めまでの二世代ほどの間に、中国の三千年来の古文化に西洋は止むことのない進撃を加えて、次々に拠点を占領して行った。技術の領域が征服されると、経済や、自然科学や、芸術や、ついには宇宙（天下）に関する古い観念についてまで、次々に譲歩せざるをえなかった。退却に次ぐ退却を重ねている間に、いつの間にか防御線を守りぬく希望さえ完全に放棄された。その過程でこの二世代の努力は容赦なく粉碎された。…

（中略）…彼らの悲劇は、中国の進歩派の努力が、たちまちのうちに時代おくれになっていくその変化の速さの中にあつた。1890年代に[ ]を主張することは、1910年代に共和主義者となること、あるいは1930年に共産主義者であることを告白するより、大きな勇気を必要としたのである。（バラッシュ『中国文明と官僚制』，村松裕次訳に基づいて一部文章を改めた）

解答例

第一世代の改革の洋務運動は、アロー戦争の敗北などで近代化の必要性を認識した曾国藩や李鴻章ら漢人官僚を中心に、ヨーロッパからの技術導入による富国強兵をめざした。中体西用を標語とし、伝統的な君主独裁体制は維持しようとしたが、日清戦争の敗北で挫折した。第二世代の改革の変法自強運動は、公羊学派の康有為を中心に、日本の明治維新にならって立憲君主制の樹立をめざしたが、西太后ら保守派の戊戌の政変により挫折した。

（200字）☒

問題 近代

西アジア

近代の中東

問題A,Bに答えなさい。

B 現代の中東では、多くの戦争と紛争が起きている。その起源は、何百年もの宗教・民族・文明の対立などではなく、19世紀末から20世紀初頭にかけての時代状況にあった。そこで、この時代状況とはどのようなものであったのかを、当時の中東で生じた事件の一つ取り上げる中で、説明しなさい。(200字以内)

解答例

1908年オスマン帝国では青年トルコ革命が起こり、オスマン臣民の平等を規定したミドハト憲法が復活した。しかし、民族主義を背景とするバルカン半島のキリスト教徒や、アルメニア人、アラブ人の独立運動は止まず、帝国主義の時代状況の下、ヨーロッパ列強も民族主義運動を利用して介入した。革命政権内にもトルコ人の連帯を説くパン＝トルコ主義が台頭し、アルメニア人虐殺事件も引き起こされて、諸勢力の対立は激化していった。

別解

1917年のバルフォア宣言。第一次世界大戦に際しイギリスは帝国主義の時代状況の下オスマン帝国の分割を密約するサイクス＝ピコ協定を仏露と結んだ。にもかかわらず、その前年には、アラブ人の民族主義の勃興を利用し、アラブ人独立を支援するフサイン＝マクマホン協定を結び、19世紀末から反ユダヤ主義の風潮に対して発生したユダヤ人のシオニズム運動を利用し、バルフォア宣言でユダヤ人国家の建設を約束し、中東紛争の根本原因を作り出した。

問題 近代・現代

東アジア

日中戦争と東アジア

A. 1937年7月、中国のある都市の近郊で中国軍と日本軍の間で衝突が発生し、その後8年間にわたって続く全面戦争のきっかけとなった。衝突が発生した場所は中華民国の領土内であったが、当時5000名以上の日本軍がこの都市及びその周辺地域に駐屯していた。この地域における外国軍の駐兵権は、どのような取り決め(条約)に由来するものであったのか、また、駐兵権に関する項目以外にこの条約ではどのようなことが定められたか、その主な内容を二つ述べなさい。(200字以内)

解答例

外国軍の駐兵権は、義和団事件の処理条約として、清朝と列強八カ国等との間で1901年に締結された北京議定書において、北京の外国公使館所在地域防衛のための駐兵権を清朝が承認したことに由来する。この条約では、義和団関係者の処罰とともに、排外運動を清朝が取り締まることが強制された。また、関税を担保に巨額の賠償金も課せられた。そのため、政治と経済の両面において中国の半植民地化が進む内容となった。

戦時期の日本の朝鮮支配政策

B. 日本と中国の間に全面戦争が始まると、日本の朝鮮に対する植民地支配はいつそう過酷なものとなった。以下に掲げる史料は、1937年10月に制定された文書で、戦時期の支配政策を特徴づけるものの一つである。この史料を読み、下記の問いに答えなさい。

【史料】

- 一、我等ハ皇国臣民ナリ 忠誠持テ君国ニ報ゼン
- 二、我等皇国臣民ハ 互ニ信愛協力シ 以テ団結ヲ固クセン
- 三、我等皇国臣民ハ 忍苦鍛錬カヲ養ヒテ以テ皇道ヲ宣揚セン

問い、日本の朝鮮植民地政策は、「韓国併合」以来、どのように変化してきたのかを簡潔に述べたうえで、日中全面戦争の開始以降には、どのような支配政策が展開されたのか、それはどのような特徴をもつものであったかを説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(200字以内)

三・一独立運動 創氏改名 強制連行 兵站

解答例

朝鮮総督府は当初は憲兵警察を中心とした武断政治を行ったが、1919年の三・一独立運動によって言論出版統制の緩和など文化政治へ転換した。しかし、満州事変以後は中国進出への兵站基地化を図り、日中全面戦争が始まると、創氏改名、神社参拝の強制、日本語使用強制の皇民化政策を推進して同化政策を取り、朝鮮を総動員体制に組み込んだ。太平洋戦争が勃発すると、労働力不足解消のため日本への強制連行も行われた。

古代インド世界の成立

A. 今日、南アジアと呼ばれる広大な地域には、系統を異にするさまざまな人々が居住していた。この地域において、インド世界として特有の社会・宗教・文化体系の生成が始まったのは、たかだか最近3500年ほどのことである。こうして出現したインド古代の社会・宗教・文化体系とはどのようなものであり、それらはどのような過程を経て形成されたのかを説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(200字以内)

インダス文明 ヴェーダ \*ブラーフマン ヴァルナ ダルマ  
マウリヤ朝

\*注、バラモンとも呼ばれる。

解答例

パンジャーブ地方に侵入したアーリヤ人は、先行のインダス文明を吸収しつつ神々への賛歌ヴェーダを成立させた。彼らのガンジス川中流域への移動と先住民族征服の過程で、ブラーフマンを頂点とする古代身分制度のヴァルナやバラモン教が成立した。都市国家が建設され、クシャトリヤやヴァイシャが台頭すると、ヴァルナを否定するジャイナ教や仏教が成立し、ダルマを統治理念としたマウリヤ朝のアショーカ王の下で仏教が普及した。

古代朝鮮

B. 4世紀後半、朝鮮半島には高句麗・百済・新羅が並び立つ形勢が生まれ、7世紀には三国の抗争は、新羅が半島中南部を統一することによって終結した。4世紀から7世紀までの朝鮮半島における情勢の推移について、中国王朝との関係を含めて、説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(200字以内)

楽浪郡 加羅諸国 煬帝

解答例

4世紀初め高句麗は漢民族の拠点であった楽浪郡を滅ぼして半島北部を支配した。一方南部では馬韓から百済、辰韓から新羅、弁韓から加羅諸国が成立したが、加羅諸国は百済と新羅の圧迫を受け、新羅に滅ぼされたため、三国鼎立の形勢が決定した。当初は高句麗が有力だったが、隋の煬帝や唐の太宗の遠征を受け、これを撃退したものの国力を消耗し、最後は唐と結んだ新羅が百済と高句麗を相次いで滅ぼして半島中南部を統一した。

近世のヨーロッパ諸国の銀の獲得

A 次の文章を読んで、問1、問2に答えなさい。

15世紀末に始まるヨーロッパ諸国のアジアへの進出は、主役とその形態を変化させながら、今日に及んでいる。初期の段階について考えると、彼らのアジア進出の目的は、当時のヨーロッパにおいて珍重されたアジアの物産を入手することにあった。この時期、彼らはアジアの物産を買い、それをヨーロッパ市場で売りさばいて利益をあげたばかりではなく、アジア内の貿易にも参加して大きな利益を得ていた。

問1. 下線部分をよく読んで、16世紀から18世紀中頃にかけて、ヨーロッパ諸国はアジアの物産を買い付けるための貨幣をどのように得ていたのかを、金銀の産地や経由地を明示しつつ、説明しなさい。(65字以内)

解答例

南ドイツ産の銀を喜望峰経由で、新大陸産の銀を太平洋からマニラ経由で運び、一方日本産の銀をマカオや台湾経由で得ていた。

18世紀のイギリス三角貿易

A 次の文章を読んで、問1、問2に答えなさい。

15世紀末に始まるヨーロッパ諸国のアジアへの進出は、主役とその形態を変化させながら、今日に及んでいる。初期の段階について考えると、彼らのアジア進出の目的は、当時のヨーロッパにおいて珍重されたアジアの物産を入手することにあった。この時期、彼らはアジアの物産を買い、それをヨーロッパ市場で売りさばいて利益をあげたばかりではなく、アジア内の貿易にも参加して大きな利益を得ていた。

問2. 18世紀後半になると、ヨーロッパのある国を軸にして、アジアにおける交易に新たな形態が生じた。その新たな形態とはいかなるものであったのかを説明しなさい。(135字以内)

解答例

イギリスは茶の需要増に伴う輸入増大で銀の流出で苦慮していた。それを防ぐために、産業革命の機械製綿布をインドに輸出し、東インド会社はインドから中国へアヘンを輸出して、銀を本国に回収する三角貿易を開始した。☒☒

<別解>

イギリスは中国茶の輸入を本格化し、銀の流出で苦慮するようになった。その赤字の解消を、インド産綿布を購入し、大西洋三角貿易におけるアフリカ向け輸出品として転売することで、回収しようとした。

香港植民地の歴史

B 次の文章を読んで問3に答えなさい。

ヨーロッパ諸国のアジア進出は各地で戦争をひきおこすことにもなった。19世紀前半にイギリスが当時の中国、清とのあいだにひきおこした戦争では、清にとっての不平等条約の先駆けとなる条約が結ばれ、ある場所がイギリスに割譲され、植民地とされることになった。

問3. 割譲された地名をあげ、その植民地としての発端から現在までの歴史を、関連する戦争名・終結条約名、中国や日本との関係にも言及しながら記述しなさい。(200字以内)

解答例

問3

香港。1842年アヘン戦争の南京条約で香港島がイギリスに割譲され、1860年にはアロー戦争の北京条約で対岸の九竜半島南部もイギリス領となった。1898年にイギリスは九竜半島全域と周辺諸島を99年間の条件で租借し、香港植民地が完成した。第二次世界大戦中は日本の占領下にあったが、戦後イギリスが回復した。しかし1997年に香港植民地は一国二制度で50年間従来の体制維持の条件で中華人民共和国に返還された。

### 国民革命の収束

次の文章は、ある朝鮮人革命家がアメリカのジャーナリストに語った話しをもとに書かれたものである。これを読んで、下の問に答えなさい。

全朝鮮人は右派左派共々に、中国におけるこの（革命の）高まりを己れ自身の国を解放する第一歩と考えて喜んだ。戦闘参加を志願して真っ先に広東へ馳せ参じた人の中にさまざまな種類の朝鮮人革命家がたちがいた。

（中略）朝鮮人は中国人にまじってあらゆる分野で活発に働いた。あるものは顧問として、あるものは黄埔軍官学校や中山大学の教官として、あるものは革命軍の幕僚として。他のものは軍隊に入って戦った。

（中略）今となつてはあの北伐に向かう革命家たちすべてが感じていた、浮き立つ心と熱狂を思い出すことさえ難しい。・・・華北へ、朝鮮へ、私たちの心はおどった。「故国で、満州で、二千万朝鮮人が全アジアの自由のため武器をとって帝国主義と戦おうと待っている」と私たちは中国人に確信をもって語った

（ニム・ウェールズ『アリランの歌』，1941年，松平いを子訳）。

問1 中国のこの革命はどのようなかたちで収束したか、次の語句を使って説明しなさい。（300字以内）

武漢 南京 上海

問2 当時広東には朝鮮人以外にもアジア全域の革命家・独立運動家が集まっていた。民族革命のための組織を広東で結成した、アジアのある地域のこの時期の革命運動について述べなさい。（100字以内）

### 解答例

1926年に国民党と共産党が合作した国民政府は、五・三〇運動による反帝国主義意識の高揚を背景に、北方の諸軍閥を打倒し、中国を統一することを目的とした国民革命を宣言し、広州から北伐を開始した。北伐軍は民衆の支持を受けて長江に達し、武漢に国民政府を移し、南京と上海を占領した。しかし1927年国民党右派の蔣介石は共産主義の伸長を警戒する浙江財閥と米英の要請を受けて上海クーデタを断行して共産主義者を弾圧すると、南京に国民政府を樹立した。武漢国民政府は国民党左派が共産党と対立して崩壊し、国民党左派も南京国民政府に合流した。蔣介石は1928年より北伐を再開し、北京より東北軍閥を追放してほぼ中国を統一した。

1920年代のヴェトナム民族運動

次の文章は、ある朝鮮人革命家がアメリカのジャーナリストに語った話しをもとに書かれたものである。これを読んで、下の問に答えなさい。

全朝鮮人は右派左派共々に、中国におけるこの（革命の）高まりを己れ自身の国を解放する第一歩と考えて喜んだ。戦闘参加を志願して真っ先に広東へ馳せ参じた人の中にさまざまな種類の朝鮮人革命家がたちがいた。

（中略）朝鮮人は中国人にまじってあらゆる分野で活発に働いた。あるものは顧問として、あるものは黄埔軍官学校や中山大学の教官として、あるものは革命軍の幕僚として。他のものは軍隊に入って戦った。

（中略）今となつてはあの北伐に向かう革命家たちすべてが感じていた、浮き立つ心と熱狂を思い出すことさえ難しい。・・・華北へ、朝鮮へ、私たちの心はおどった。「故国で、満州で、二千万朝鮮人が全アジアの自由のため武器をとって帝国主義と戦おうと待っている」と私たちは中国人に確信をもって語った

（ニム・ウェールズ『アリランの歌』，1941年，松平いを子訳）。

問2 当時広東には朝鮮人以外にもアジア全域の革命家・独立運動家が集まっていた。民族革命のための組織を広東で結成した、アジアのある地域のこの時期の革命運動について述べなさい。（100字以内）

解答例

問2

広東ではホーチミンによりベトナム青年革命同志会が結成され、後のインドシナ共産党の基盤となった。ベトナム国内では孫文の影響を受けたベトナム国民党が結成されたが、武装蜂起に失敗した。

清朝の中国支配の過程

下記の間(ア) (イ) に答えなさい。

(ア) 17世紀前半、女真族が建てた後金は明軍を破って中国東北地方を支配し、国号を清と改めた。この清が1644年に北京に都を移してから、さまざまな対抗勢力をおさえて、中国本部の全域に対する支配を確立するまでには、およそ40年を要した。1644年以降における清の中国支配の確立の過程について、簡潔に説明しなさい。（200字以内）

解答例

清は明を滅ぼした李自成の乱を鎮圧し、北京に入城した。その後、明の復活を唱え、明の王族を擁立した反清復明運動が南方各地で起こったが、これに対しては呉三桂ら明の降将を用いて鎮圧し、復明運動に参加した鄭成功とその一族が台湾に拠点を置いて抵抗すると、遷界令で対抗した。南方で藩王とした呉三桂らが三藩の乱を起こすと康熙帝はこれを鎮圧し、台湾にも遠征軍を派遣してこれを征服し、1683年に中国の統一に成功した。

問題 近代

東アジア

朝鮮と日本・清との外交関係

下記の間(ア) (イ) に答えなさい。

(イ) 17世紀以来続いてきた朝鮮と日本、朝鮮と清との外交関係はどのようなものであり、それらが19世紀後半にどのように変化したのかを、簡潔に説明しなさい。その際、下記の語句を必ず使用し(重複してもよい)、その語句に下線を付すこと。(200字以内)

藩属国 朝鮮国王 下関条約

解答例

徳川幕府成立後、朝鮮国王と将軍が対等な外交関係が結ばれ、将軍の代替わりに際して朝鮮通信使が来訪した。他方朝鮮は17世紀に清朝の藩属国となっていたが、1876年に明治政府は不平等条約である日朝修交条規を結んで朝鮮を開国させるとともに、朝鮮を独立国とみなして清朝の宗主権を否定した。しかし清朝は宗主国の立場から干渉を強め、日清戦争に至った。敗北した清朝は下関条約で宗主権を放棄し、日本の朝鮮への圧力が増した。

問題 近代・現代

東アジア

孫文と中国革命同盟会

1911年10月、武昌で新軍が蜂起した後、中国各省は相次いで清朝からの独立を宣言した。そうした状況のなかで、1912年1月、中華民国が成立し、革命の指導者であった人物Aが南京で臨時大総統の地位についた。しかし、この年2月に清朝の宣統帝溥儀が退位した後、臨時大総統の地位は人物Bに譲られた。

問1 人物Aが誰であるかを答え、この人物の主導により1905年に組織された政治団体、この団体の掲げた基本綱領について説明しなさい。(200字以内)

解答例

問1

孫文。1894年に興中会を組織し、革命運動を開始した孫文は、1905年に華興会や光復会など革命諸派を統合して中国同盟会を組織した。中国同盟会は、孫文の三民主義に基づき、民族主義を満州族王朝の打倒と中華民族の復興を唱える駆除脱虜と恢復中華、民権主義を共和政の採用を主張する創立民国、民生主義を貧富の格差拡大の予防のため、土地の権利の平等を主張する平均地権として綱領化し、四大綱領として掲げた。

## 一橋大学 1997 3 2

問題 近代・現代

東アジア

### 袁世凱政権

1911年10月、武昌で新軍が蜂起した後、中国各省は相次いで清朝からの独立を宣言した。そうした状況のなかで、1912年1月、中華民国が成立し、革命の指導者であった人物Aが南京で臨時大總統の地位についた。しかし、この年2月に清朝の宣統帝溥儀が退位した後、臨時大總統の地位は人物Bに譲られた。

問2 人物Bが誰であるかを答え、この人物を中心に繰りひろげられた1915-1916年の中国内政の動き、また、この人物の率いた政府が1915年に直面した外交上の問題について説明しなさい。(200字以内)

### 解答例

#### 問2

袁世凱。1915年袁世凱は、共和政を廃止し、新王朝の建設を目指して帝政運動を開始した。この時、第一次世界大戦でドイツに宣戦し、ドイツの租借地だった青島を占領した日本は、帝政支持と引き替えにドイツの対中国利権の継承など対華二十一カ条要求を袁世凱政権に受諾させた。しかし、これは全中国的な反発を引きおこした。帝政運動も国内の批判や地方軍閥の蜂起、欧米諸国の不支持に直面し、1916年袁世凱は帝政取消を宣言した。

## 一橋大学 1996 3 ア

問題 近世・近代

東アジア

### 清露関係

下記の問い(ア)、(イ)に答えなさい。

(ア) 清とロシアとの間では国境を定める条約が幾度か結ばれ、そうしたなかで、両国の国境は次第にロシアに有利なかたちで改定されていった。清とロシアとの間に結ばれた条約のそれぞれの名前、その条約が結ばれた年、その内容を簡潔に述べ、両国の国境問題の歴史をまとめなさい。その際、下記の語句を必ず使用し(重複しても良い)、その語句に下線を付すこと。(280字)

黒竜江 沿海州 ムラヴィヨフ 外興安嶺

### 解答例

清朝の康熙帝は、1689年ネピョートル1世期のロシアとルチンスク条約を結び、シベリアと東北地方の国境を外興安嶺山脈とアルグン川と定めた。続いて1727年キャフタ条約が結ばれ、シベリアとモンゴルの国境が確定した。しかし、ロシアの東シベリア総督ムラヴィヨフは、アロー戦争の混乱に乗じて1858年アイグン条約を結び、黒竜江以北を獲得し、さらに1860年アロー戦争の調停を口実に北京条約を結んでウスリー江以東の沿海州を獲得した。中央アジアでは、清へのイスラーム教徒の反乱を機にロシアがイリ地方を占領したが、1881年反乱を鎮圧した清とイリ条約を結び、イリ地方を返還して国境を確定した。

問題 近世・近代

東アジア

東清鉄道をめぐる日露関係

下記の問い（ア），（イ）に答えなさい。

（イ） 日清戦争後，中国東北地方の利権をめぐって，ロシアと日本との間には対抗的な関係が形作られていった。そのなかで，鉄道をめぐる問題が一つの焦点となってくる。この鉄道について簡潔に説明しなさい。（120字）

解答例

日清戦争後，日本に対し三国干渉を行って遼東半島を中国に返還させたロシアは，見返りに東北地方における東清鉄道の敷設権を獲得した。その支線は，ハルビンから，遼東半島南部の旅順・大連に至り，ロシアの東北地方進出の基盤となったため，日本が反発した。

問題 古代・中世・近世・近代

欧州・南アジア

ヨーロッパの進出と東南アジアの変化

次の文章を読み，以下の3つの問いに答えなさい。

今日東南アジアと総称される地域は，豊かな自然や資源に恵まれ，しかも東西交通上の要衝の位置を占めた。ここには様々な人々が，ある時は大規模な集団をなしたある時は少人数で，流入し続けた。新集団の登場は，しばしば新たな国家や政治権力の形成を促したし，また，社会の変質をもたらした。こうして，有史以来，この地域は実に多様な人々の移動・移住と国家の興亡の舞台となり，高度な外来文化を受容しつつも，同時に各地に独自の社会・文化を育ててきたのである。

問1.ほぼ16世紀に始まる西ヨーロッパ諸国の東南アジア進出は，この地域における経済のしくみにどのような影響を与えたかを述べなさい。その際，貿易の担い手，貿易品目，生産形態などの変化に留意すること。（240字）

問2.西ヨーロッパ諸国の進出以外に，東南アジアを舞台としてどのような人々の移動・移住があり，それがこの地域にどのような影響を与えたかを，具体例を1つあげて，述べなさい。（100字）

問3.東南アジアの人々が，高度な外来文化を受容しつつ築いた独自の文化遺跡の具体例を1つあげて，その時代，地域，特徴を述べなさい。（60字）

解答例

17世紀末までの西欧諸国の進出は，イスラム商人が支配した香辛料など特産品の産地であると共に，日本の銀と中国の生糸などの中継貿易の拠点であった東南アジアの既存の交易網に参入したものであり，現地の経済に本質的な変容を迫るものではなかった。しかし，17世紀末の香辛料価格の暴落や，東アジア交易の鎮静化によってオランダがジャワ島の領土経営と商品作物の栽培強制に転じたことを機に，東南アジアでもプランテーション経営が進展し，モノカルチャー化が進んでヨーロッパ経済に従属していった。

## 一橋大学 1995 3 2

問題 古代・中世

南アジア

### 西欧進出以前の東南アジアの人の移動

次の文章を読み、以下の3つの問いに答えなさい。

今日東南アジアと総称される地域は、豊かな自然や資源に恵まれ、しかも東西交通上の要衝の位置を占めた。ここには様々な人々が、ある時は大規模な集団をなしましたある時は少人数で、流入し続けた。新集団の登場は、しばしば新たな国家や政治権力の形成を促したし、また、社会の変質をもたらした。こうして、有史以来、この地域は実に多様な人々の移動・移住と国家の興亡の舞台となり、高度な外来文化を受容しつつも、同時に各地に独自の社会・文化を育ててきたのである。

問2.西ヨーロッパ諸国の進出以外に、東南アジアを舞台としてどのような人々の移動・移住があり、それがこの地域にどのような影響を与えたかを、具体例を1つあげて、述べなさい。(100字)

問3.東南アジアの人々が、高度な外来文化を受容しつつ築いた独自の文化遺跡の具体例を1つあげて、その時代、地域、特徴を述べなさい。(60字)

### 解答例

13世紀にタイ族がインドシナ半島に南下し、クメール人のアンコール朝を圧迫して領土を奪い、現在のタイとラオスの基盤を築いた。また、ビルマと抗争しつつ上座部仏教を受容して大陸部に普及させた。

## 一橋大学 1995 3 3

問題 中世・近世

南アジア

### 東南アジアへの人々の移動と影響

次の文章を読み、以下の3つの問いに答えなさい。

今日東南アジアと総称される地域は、豊かな自然や資源に恵まれ、しかも東西交通上の要衝の位置を占めた。ここには様々な人々が、ある時は大規模な集団をなしましたある時は少人数で、流入し続けた。新集団の登場は、しばしば新たな国家や政治権力の形成を促したし、また、社会の変質をもたらした。こうして、有史以来、この地域は実に多様な人々の移動・移住と国家の興亡の舞台となり、高度な外来文化を受容しつつも、同時に各地に独自の社会・文化を育ててきたのである。

問3.東南アジアの人々が、高度な外来文化を受容しつつ築いた独自の文化遺跡の具体例を1つあげて、その時代、地域、特徴を述べなさい。(60字)

### 解答例

アンコールワット。12世紀にアンコール朝が、ヴィシュヌ信仰の影響を受け、カンボジアの地に建設した寺院である。

(別解)

ボロブドゥール。8世紀にシャイレーンドラ朝がジャワ島中部に建設した大乘仏教遺跡で、グプタ美術の影響が見られる。

## 上海の歴史

アジアの二つの大都市に関する下記の問い（ア）（イ）に答えなさい。その際、それぞれの都市の名を解答中に明記すること。

(ア) 次の文は、1862年に中国のある都市を訪れた高杉晋作の書いたものである。これを読んで、1842年から、1927年に至るまでのこの都市の歴史を述べよ。なお、○○はその都市の名を述べた箇所である。（200字）

五月六日、午前漸く○○港に到る。此は支那第一の繁津港なり。欧羅巴諸邦の商船軍艦数千艘停泊す。(1)檣花林森として津口を埋めんと欲す。陸上は則ち諸邦の商館(2)粉壁千尺殆ど城閣の如し。其の廣大嚴烈なること筆紙を以て尽すべからざるなり。……五月七日、払暁、小銃の声陸上に轟く。皆云はく、是れ(3)長毛賊と支那人と戦ふ音なるべし。……五月二十一日、つらつら○○の形勢を觀るに、支那人は尽く外国人の(4)便役と為れり。英、仏の人街市を歩行すれば、清人皆傍らに避けて道を譲る。実に○○の地は支那に属すると雖も、英仏の属地と謂うも、又可なり（高杉晋作『遊清五録』，一部字句を修正した。）

注(1)船のマストの林立するさま

(2)白い壁

(3)具体的には淮軍を指す

(4)使用人の意味

## 解答例

1842年アヘン戦争の南京条約で開港場となった上海は、最初の租界がおかれ、中国の対外貿易の中心となった。租界は中国政府の行政権が及ばなかったため、反政府勢力の活動拠点となり、新文化運動の雑誌『新青年』は上海で創刊された。その後1921年には中国共産党が上海で結成され、1925年には反帝国主義運動の五・三〇運動が発生した。1927年には北伐途上の蒋介石が共産党とその関係者を弾圧した上海クーデタの舞台となった。

## 一橋大学 1994 3 イ

問題 近代・現代

南アジア

### カルカッタの歴史

アジアの二つの大都市に関する下記の問い（ア）（イ）に答えなさい。その際、それぞれの都市の名を解答中に明記すること。

(イ) ガンジス河下流域は、ムガル時代から肥沃な土地を利用した農作物、そして、豊富で質の高い労働力を活かした高級な織物の産地として栄えていた。しかし、その頃は、この都市はまだガンジス河口近くの一小村にすぎなかった。この村が、その後、急速にアジア有数の大都市に発展していったのは、ここがイギリス植民地支配のアジアにおける拠点となったことに起因する。

この都市を舞台として、一体、どのような事態が生じたのか。そして、それが、この都市にどのような特徴をもたらし、また、この都市がどのような運動や歴史的な出来事となったのかを答えなさい。その際、17世紀末、18世紀中頃、19世紀前半、19世紀後半、20世紀初頭の各時期に注目すること（200字）。

### 解答例

17世紀末からインド産綿布輸出拠点として発展したカルカッタは、プラッシーの戦い後、イギリスのベンガル地方の経営拠点となった。19世紀前半には産業革命の機械織り綿布の輸入拠点となり、インド綿産業の壊滅をもたらしたが、19世紀後半からは紡績業などで民族資本が成長し、市民層も増大して民族運動の拠点となった。1905年のベンガル分割令に対して1906年に国民会議派のカルカッタ大会が開催され、4綱領が採択された。☒☒

(198字)

## 一橋大学 1993 3 ア

問題 中世

西アジア・南アジア・中央アジア

### 9-12世紀のトルコ系民族の移動

現在、中央アジアは民族・宗教紛争に揺れ動いている。ところで、9世紀から12世紀にかけて、西アジア東方、南アジア北方を含む内陸アジアにおいて、今日の政治情勢と深く関係する一つの注目すべき現象が展開した。それはどのような現象なのか。当時の政治史を追いつつ解説せよ（200字）

### 解答例

9世紀のウイグル滅亡を機にトルコ人の一部がモンゴル高原から中央アジアへ移動した。10世紀に中央アジア東部に成立したトルコ系イスラーム王朝のカラ＝ハン朝は、中央アジア西部のイラン系サーマーン朝を滅ぼし、中央アジアのトルコ化とイスラーム化を進めた。また、アフガニスタンから西アジア東部にもトルコ系ガズナ朝が成立してトルコ人が進出した。さらにガズナ朝は北インドに進出してインドのイスラーム化の端緒をなした。

19世紀後半の清朝藩属国の離脱

清帝国の周辺にはいくつかの朝貢国・藩属国が存在し、外圧に対する緩衝地帯の役割をはたしていた。19世紀後半には、“西からの衝撃”によってこれら周辺諸国がつぎつぎに清帝国の統制を離れていった。そのような変化を示す具体的事例について、下記の語を用いて説明せよ。

黒旗軍 ユエ条約 李鴻章

解答例

東南アジアでは、ビルマのコンバウン朝が三度にわたるイギリスとの戦争でイギリス領のインド帝国に併合された。ヴェトナムの阮朝はフランスの進出を受け、ユエ条約で保護国となった。清朝の外交を指導した李鴻章はフランスに抵抗する黒旗軍を支援して清仏戦争を戦ったが、天津条約で宗主権を放棄した。日中両属状態であった琉球は日本が併合し、李朝朝鮮についても、日清戦争に敗北して下関条約で宗主権の放棄を余儀なくされた。

イスラームの中世

(ア)

「古代」、「中世」、「近代」という時代区分はヨーロッパ史をモデルに設定されたもので、非ヨーロッパ世界の歴史に対して、それをそのまま適用することはできない。しかし同時に、非ヨーロッパ世界の多くが、その前後の時代と異なる「中世」的な時代をへたこともまた歴史的な事実である。そこで、イスラーム世界を例に、以下の二つの字句を説明するなかで、「中世」という時代の政治体制、思想状況の特徴を述べよ。なお、その際、字句は重複使用してもよく、また、字句の下には下線を付け（200字以内）

マムルーク スーフィー信仰

解答例

イスラーム世界は、アッバース朝の衰退によって地方軍事政権が自立し、3カリフの鼎立する分裂の時代となった。ブワイフ朝がアッバース朝カリフの実権を奪ったことで、政教分離体制が確立し、中央集権的な官僚制に代わって奴隷軍人であるマムルークなどに徴税権を与えて軍役を課すイクター制が普及した。またイスラーム教の形式化に対する反発から内面における神との一体化を唱える神秘主義思想のスーフィー信仰が普及した。

## 一橋大学 1992 3 イ

問題 近代

東アジア

### 日本の朝鮮半島支配

(イ) 1904年2月、ロシアとの戦争を決意した日本は宣戦布告に先立って、韓国領土を占領するとともに、次々に韓国に対し「議定書」、「協約」、「条約」を強要し、日本の朝鮮支配は一挙に完成にむかって加速された。朝鮮民衆は激しく抵抗したが、日本は直接これらの抵抗をうちくだき、ついに1910年8月韓国を併合した。次の用語をつかって日露戦争勃発から韓国併合までの過程を述べよ(200字)

日韓議定書 第二次日韓協約 抗日義兵闘争

### 解答例

日露戦争を機に日本は韓国と日韓議定書によって日本軍の行動の自由を、第一次日韓協約によって政府顧問派遣を承認させた。戦争後の1905年には第二次日韓協約によって外交権を奪い保護国として韓国統監府を設置し、1907年のハグ密使事件を機に第三次日韓協約によって内政権を掌握して軍隊も解散させた。それに対し民衆の抗日義兵闘争が激化した。安重根による伊藤博文暗殺を機に日本は日韓併合条約を結び、朝鮮総督府を設置した。

(200字) ☒☒

## 一橋大学 1991 3 ア

問題 近代

東アジア

### 甲午農民戦争

下記の問いに答えよ。

1894年に全羅道古阜郡でおこった農民一揆は、単なる一気に終わらず、朝鮮王朝の土台をゆさぶる広がりを見せた。そのためこの一揆は別に甲午農民戦争(東学党の乱)といわれ、その鎮圧をめぐって日清戦争を惹起し、東アジア世界に大きな波紋をひきおこしたが、以下の字句を使って戦争の原因、展開、挫折の過程を述べよ。なお字句の重複使用は可、また字句の下には下線を付け。(200字)

東学 全州和約 日清戦争

### 解答例

全羅道には、儒・仏・道の三教を調和し、身分平等と社会改革を説く東学教が広がっていた。李朝の悪政に対し、東学教の地方指導者であった全琫準は、税の軽減と腐敗役人の追放、日本など外国勢力の排除を唱え甲午農民戦争を開始した。日清両国が出兵すると、朝鮮半島の戦場化を回避するため李朝と全州和約で講和し、全羅道での自治を承認されたが、日本が親日政権を樹立して日清戦争を引きおこし勝利すると、日本軍に鎮圧された。

## 一橋大学 1991 3 イ

**問題** 近代・現代

東アジア

### 皇民化政策

下記の問いに答えよ。

1930年代後半から日本は植民地朝鮮に皇民化政策という民族抹殺政策を実施したが、その政策の柱となる具体例を三つあげ、政策の意図がどこにあったのか、述べよ。(200字)

### 解答例

皇民化政策は、日中戦争が始まり、戦時動員体制が強化されていた当時の状況を背景に、朝鮮人の同化政策を進めることで、植民地朝鮮における動員体制を構築することにあつた。天皇が神道の祭司長であったことから、各地に神社を建設して神社参拝を強制した。学校教育を日本本国と同内容にすることで、学校での朝鮮語を事実上禁止した。日本式の戸籍法を実施するため、朝鮮風の姓を日本風の氏に改める創氏改名を推進した。

## 一橋大学 1990 3 ア

**問題** 近世・近代

東アジア・中央アジア

### 清の藩部支配の経緯

清の支配する領域は18世紀中頃までに大きく広がり、このうち、モンゴルをはじめとする一部の地域は藩部として特色ある統治のもとにおかれた。

モンゴルのほかに、藩部と称されたのは今日のどの地域にあたるか。また、モンゴル及びこれらの地域が清に征服されていた経緯を記せ(160字)

### 解答例

中央アジア東部、青海、チベット高原である。中央アジア東部を支配したジュンガルは、チベットのダライ=ラマと提携し、外モンゴルにも進出しようとして清朝と対立した。康熙帝から乾隆帝にかけて清はジュンガルと争い、康熙帝時にチベットを、雍正帝時に青海を、乾隆帝時についにジュンガルを滅ぼして中央アジア東部を支配した。

一橋大学 1990 3 イ

問題 近世

東アジア・中央アジア

清のモンゴル支配の特徴

清の支配する領域は18世紀中頃までに大きく広がり、このうち、モンゴルをはじめとする一部の地域は藩部として特色ある統治のもとにおかれた。

清のモンゴル支配の特徴を述べよ。(80字)

解答例

モンゴル帝国の大ハン位の継承者として、チベット仏教のダライラマの保護者としてモンゴル王侯に君臨したが、自治を容認し、理藩院から派遣した監督官とともに統治させた。

一橋大学 1990 3 ウ

問題 近世・近代

東アジア・中央アジア

清滅亡後の外モンゴルの変遷

清の支配する領域は18世紀中頃までに大きく広がり、このうち、モンゴルをはじめとする一部の地域は藩部として特色ある統治のもとにおかれた。

清の滅亡からモンゴル人民共和国成立にいたるまでの、外モンゴルのたどった歴史をまとめよ(160字)

解答例

清が滅亡すると、漢人の中華民国は清の大ハンとしての権威は継承せず、自分たちは独立を回復したと考えた外モンゴルのモンゴル族は、活仏を元首に独立を宣言した。中華民国はこれを承認せず対立が起こったが、モンゴル人の共産主義者はソ連の支援を受けての独立を目論み、ソ連の軍事力を背景に政権を獲得すると、モンゴル人民共和国を樹立した。

### 義和団の特徴

次の文章を読んで下記の問い（ア）、（イ）、（ウ）に答えよ。

清政府は全く能無しだ、  
八カ国軍北京を占領。  
占領されてもまだ足りず、  
売国条約結ぶとは。  
十万両\*の賠償を払い、  
そのうえ各国軍は北京に居残る、  
中国の庶民はこれを知り、  
怒りに胸もはりさげんばかりだ。

（伊藤昭雄氏の訳による）

\*この数字は正確ではないが、当時民間ではこのように伝えられていたという。

（ア）上の文はある政治的事件に際して、中国の民衆の間に伝えられた歌の一節である。この事件の原因となった民衆運動の組織と信仰はいかなる性格のものであり、それはどのような情勢に対応して発生したのか（200字）。

### 解答例

義和団は、白蓮教系の秘密結社であり、拳法修行による神通力獲得を説いた義和拳教が農民の自警団と結びついて成立した。義和団は、外国勢力の中国進出とそれを背景とするキリスト教布教に反発する民衆の不満を吸収して拡大した。特に1898年に列強による中国分割競争が激化し、山東地域がドイツの勢力圏とされると、「除教安民」を主張してキリスト教排斥の仇教運動を激化させ、「扶清滅洋」を掲げる排外運動に発展した。

義和団事件の八カ国連合軍の構成

次の文章を読んで下記の問い（ア），（イ），（ウ）に答えよ。

清政府は全く能無しだ、  
八カ国軍北京を占領。  
占領されてもまだ足りず、  
売国条約結ぶとは。  
十万両\*の賠償を払い、  
そのうえ各国軍は北京に居残る、  
中国の庶民はこれを知り、  
怒りに胸もはりさけんばかりだ。

（伊藤昭雄氏の訳による）

\*この数字は正確ではないが、当時民間ではこのように伝えられていたという。

（イ）出兵した八カ国軍の主力を形成したのはどこの国の軍隊か、また、それはどのような国際情勢に起因しているか（100字）。

解答例

イギリスは南ア戦争、アメリカはフィリピンのアギナルドの抵抗運動鎮圧のため大部隊を派遣できず、軍の主力は東北地方への進出を図るロシアと、朝鮮半島への進出を図りロシアに対抗した日本であった。

マフディーの乱

次の文章を読んで下記の問い（ア）、（イ）、（ウ）に答えよ。

清政府は全く能無しだ、  
八カ国軍北京を占領。  
占領されてもまだ足りず、  
売国条約結ぶとは。  
十万両\*の賠償を払い、  
そのうえ各国軍は北京に居残る、  
中国の庶民はこれを知り、  
怒りに胸もはりさけんばかりだ。

（伊藤昭雄氏の訳による）

\*この数字は正確ではないが、当時民間ではこのように伝えられていたという。

（ウ）この民衆運動が拡大しつつある頃に終息したアフリカにおける宗教的反乱について記せ（100字）。

解答例

この反乱はマフディーの乱で、エジプトと、そのエジプトを保護国としたイギリスの支配に対し、ムハンマド＝アフマドがイスラムの救世主であるマフディーを称して抵抗し、一時はスーダン全土に勢力を拡大した。☒☒